

太田遺跡 I

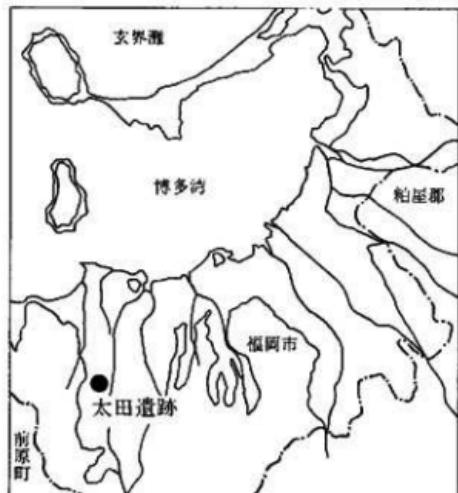
市道田・飯盛線関係埋蔵文化財調査報告III

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第239集

1991

福岡市教育委員会

太田遺跡 I



遺跡略号 OHT-1
遺跡調査番号 8521

1991

福岡市教育委員会

序

福岡市西部の室見川左岸台地一帯には、豊かな文化遺産が数多く残されています。

福岡市では、早良区田から西区飯盛に通じる市道田・飯盛線の新設を進めてきましたが、室見川左岸台地を東西に横切るその路線内には埋蔵文化財包蔵地が含まれることから、事前に記録の保存が必要となり、昭和57年度から市土木局の委託を受け発掘調査を行ってきました。その成果の一部は埋蔵文化財調査報告書としてまとめられています。

本書は昭和60年度の市道田・飯盛線建設にともなう3次調査、太田遺跡第1次調査を報告したものです。調査の結果、弥生時代後期の溝、古墳時代前期の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、溝、中世の掘立柱建物跡、溝等を検出しました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまで地元、福岡市土木局の関係者をはじめ多くの方々の御理解と御協力に対し、心から謝意を表します。

平成3年1月10日

福岡市教育委員会

教育長 井口 雄哉

例　　言

1. 本書は福岡市土木局道路建設課による市道田・飯盛線建設に伴い、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が昭和60年度に発掘調査を実施した太田遺跡第1次調査の報告である。
2. 本書に掲載した遺構の実測・撮影は担当の埋蔵文化財課の吉武学、佐藤一郎があたった。空中写真は、空中写真「福富」による。
3. 本書に掲載した遺物の実測は吉武、佐藤が、撮影は佐藤があたった。
4. 製図は担当者の他、藤村佳公恵がその大半を行った。
5. 本報告の記録類、出土遺物は、収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。
6. 本書の執筆、編集は担当の二宮忠司、吉武、佐藤協議のうえ佐藤がこれにあたった。

目 次

序

Iはじめ	
1 調査にいたる経過	1
2 調査の組織	1
II 遺跡の位置と環境	3
III 発掘調査の概要	3
IV 遺構と遺物	4
1 検出遺構	4
掘立柱建物	4
竪穴住居跡	5
土壙	9
溝	10
2 出土遺物	18
V 小結	31

表 目 次

第1表 SC01竪穴住居跡出土遺物観察表	18
第2表 SD01溝出土遺物観察表 (1)	19
第3表 SD01溝出土遺物観察表 (2)	20
第4表 SD04溝出土遺物観察表 (1)	20
第5表 SD10溝出土遺物観察表 (1)	21
第6表 SD10溝出土遺物観察表 (2)	23
第7表 包含層出土遺物観察表	26

挿図目次

第1図 太田遺跡と早良平野の主な遺跡（1／5万）	2
第2図 太田遺跡第1次調査遺構配置図	折り込み
第3図 掘立柱建物実測図 (1)	6
第4図 掘立柱建物実測図 (2)	7
第5図 掘立柱建物実測図 (3)	8
第6図 穴住居跡実測図	10
第7図 土壙実測図 (1)	11
第8図 土壙実測図 (2)	12
第9図 土壙実測図 (3)	13
第10図 土壙実測図 (4)	14
第11図 溝実測図	15
第12図 溝層実測図	16
第13図 包含層層実測図	折り込み
第14図 SC01穴住居跡出土遺物実測図	17
第15図 SD01溝出土遺物実測図 (1)	18
第16図 SD01溝出土遺物実測図 (2)	19
第17図 SD04溝出土遺物実測図 (1)	20
第18図 SD04溝出土遺物実測図 (2)	21
第19図 SD10溝出土遺物実測図 (1)	23
第20図 SD10溝出土遺物実測図 (2)	24
第21図 包含層出土遺物実測図 (1)	26
第22図 包含層出土遺物実測図 (2)	27
第23図 包含層出土遺物実測図 (3)	28
第24図 SD02溝出土遺物実測図	29
第25図 SK13粘土採掘坑出土遺物実測図	30
第26図 出土石器実測図	30
第27図 II期造構構成図	31
付 図 太田遺跡第1次調査遺構配置図	

図版目次

- 図版 1 調査区周辺空中写真
図版 2 1. 調査区全景空中写真 2. I 区全景空中写真
図版 3 1. I 区東半部分空中写真 2. I 区西半部分空中写真
図版 4 1. II 区東半部分空中写真 2. II 区西半部分空中写真
図版 5 1. I 区東半部掘立柱建物群 2. I 区西半部掘立柱建物群
図版 6 1. SB05掘立柱建物 2. SC01竪穴住居跡
図版 7 1. SC01竪穴住居跡（南西から）
2. SC01竪穴住居跡（北西から）
図版 8 1. SD01溝（北西から） 2. ピット状遺構遺物出土状況
図版 9 1. SD04溝（北東から） 2. SD10溝空中写真
図版10 1. SD10溝Ⅲ区南西壁土層 2. SD10溝Ⅱ区南壁土層
図版11 1. SD10溝Ⅲ区西壁土層 2. SX01土層
図版12 SC01・SD01(1)出土遺物
図版13 SD01出土遺物(2)
図版14 SD04出土遺物(1)
図版15 SD04出土遺物(2)
図版16 SD10出土遺物(1)
図版17 SD10出土遺物(2)
図版18 SD10出土遺物(3)
図版19 SD10出土遺物(4)
図版20 包含層出土遺物(1)
図版21 包含層出土遺物(2)
図版22 包含層出土遺物(3)
図版23 包含層出土遺物(4)
図版24 包含層出土遺物(5)
図版25 SK13出土遺物
図版26 出土石器

I はじめに

1 調査にいたる経過

都市化の波は近年まではのどかな田園地帯がひろがっていた福岡市西南部にまで押し寄せ、その一環として道路の整備が着々と行われている。早良平野を南北に貫流している竜見川を跨いで、早良区田から西区飯盛に通じる市道田・飯盛線もその一つである。路線予定地周辺では、圃場整備に伴って発掘調査が行われており、土木局道路建設課から教育委員会文化課（現埋蔵文化財課）に対して、年次計画に沿って路線予定地内の埋蔵文化財の有無についての照会がなされた。それを受けて文化課は試掘調査を行い、河川の氾濫・後世の削平を受けた一部分を除いてほぼ全域に埋蔵文化財が認められた。第1次調査（吉武遺跡群第3次調査）は1982年9月から1983年2月にかけて、その西側延長部の第2次調査（吉武遺跡群第5次調査）が1984年3月から5月にかけて行われ、その成果はすでに報告書としてまとめられている（「吉武遺跡群I－市道田・飯盛線関係埋蔵文化財調査報告I－」福岡市埋蔵文化財調査報告書第127集1986、「吉武遺跡群IV－市道田・飯盛線関係埋蔵文化財調査報告II－」同第194集 1989）。最終年次にあたる第3次調査（1985年度）は本報告で述べる太田遺跡第1次調査にあたる。

2 調査の組織

調査委託 福岡市土木局道路建設課

調査主体 福岡市教育委員会文化部埋蔵文化財課第1係

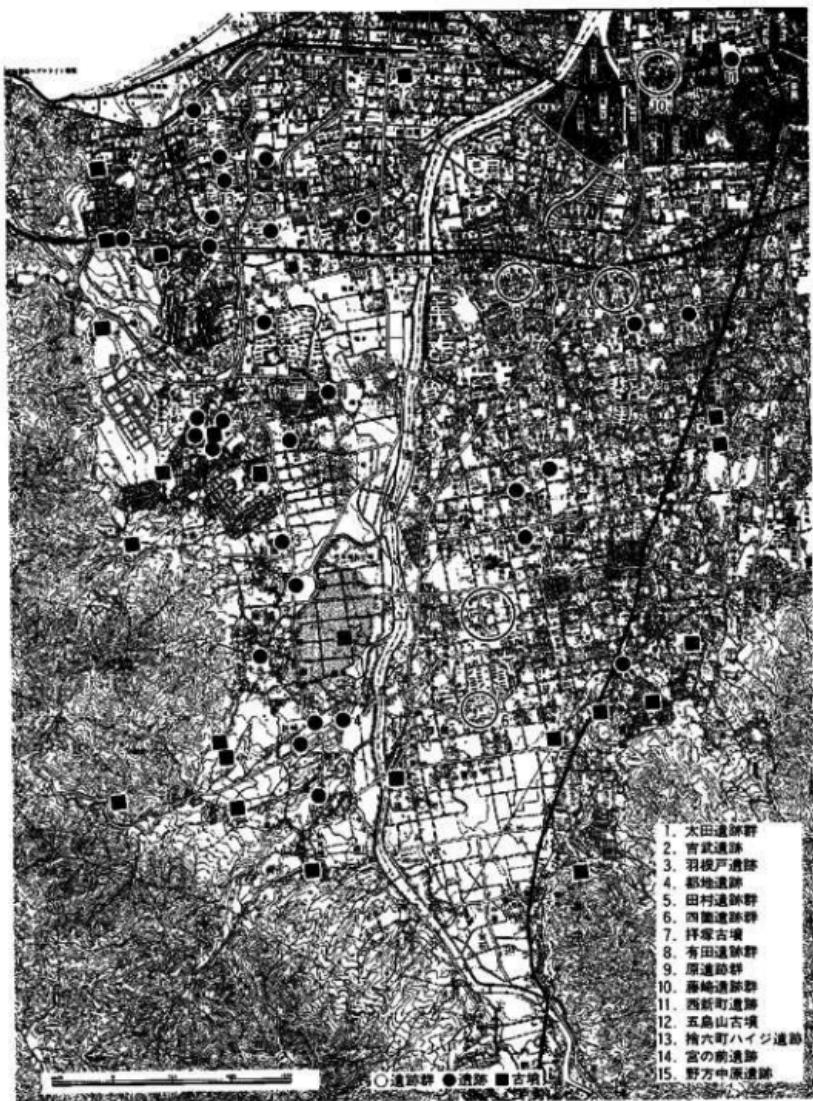
埋蔵文化財課長 柳田純孝 第1係長（前任）折尾学 第1係長 飛高憲雄

座務担当 岸田隆（前任） 中山昭則

調査担当 試掘調査 山崎龍雄 松村道博

発掘調査 二宮忠司 佐藤一郎 吉武学

資料整理・調査協力者 牛尾豊・太田孝房・尾崎達也・鬼丸邦宏・柳太郎・柳光雄・柴田大正・廣田義美・結城弥澄・相川和子・伊藤みどり・牛尾秋子・牛尾シキヨ・牛尾奈美枝・牛尾二三子・大内文恵・大穂朝子・大穂栄子・尾崎八重・金子ヨシコ・菊池栄子・柳スミ子・清水文代・正崎由須子・懶慶トミ子・多川映子・典略初・中牟田サカエ・鍋山千鶴子・西島タミエ・西島初子・平田政子・平田ミサ子・平野志津江・平野ミサヲ・藤タケ・藤崎洋子・藤野邦子・藤村佳公恵・細川ミサヲ・丸山信枝・真名子ユキエ・真鍋チエ子・八尋君代・山西人美・結城君江・結城シズ・結城千賀子・結城信子・吉岡貝代・吉岡タヤ子・吉岡薫枝・米島ハツネ・脇坂ミサヲ



第1図 太田遺跡と早良平野の主な遺跡 (1/5万)

II 遺跡の位置と環境

太田遺跡は、背振山地から北に派生した山地の中の飯盛山東山麓部の標高約24mの台地上に位置する。室見川の左岸、背振山地から北に派生した山々の東山麓部の台地には、遺跡が濃密に分布している。飯盛山とその北側の叶岳の東北麓では弥生時代後期から古墳時代にかけての集落、墳墓群が検出されている野方遺跡、飯盛山東山麓部では多紐細文鏡・多数の青銅製武器・玉類が弥生時代前期末から中期初頭の甕棺墓・木棺墓から構成される墳墓群から出土した吉武高木・大石遺跡などを含んでいる吉武遺跡群が広く知られているところである。吉武遺跡群では、旧石器時代の遺物包含層、縄文時代後期の貯藏穴群、樋渡弥生墳丘墓、多数の陶質土器、初期須恵器が出土した集落址、越州窯系青磁・円面鏡・八稜鏡が出土した溝で区画された掘立柱建物と枚舉に暇がないほど発掘調査での成果が得られている。山々の東山麓部では古墳時代後期の群集墳が多数築造されている。北から列挙すると、広石古墳群・野方古墳群・羽根戸古墳群・羽根戸南古墳群・金武古墳群などがその主たるものである。古墳に鉄津を供獻する例が多くみられるのが当地域の特徴である。太田遺跡では、今回の調査の後も飯盛地区園場整備(第2次調査)や市道野方・金武線建設(第3次調査)に伴って調査が行われており、弥生時代後期・古墳時代前期・中世の集落址、弥生時代後期の甕棺墓などが検出されている。

III 発掘調査の概要

調査は1985年7月11日にバックフォーによる表土剥ぎより開始した。調査区周辺は耕作中であり、耕土置き場を調査区域内で確保しなくてはならない関係上、調査区域を東西に分割し打つ手替えて調査を行った。調査区域の現況は畑で、東半部では耕作土直下で遺構面が確認され、後世の削平は著しく竪穴住居跡の残存する壁の高さは約5cmを測るにとどまる。夏場の調査で好天が続き地面が乾燥し調査区の東側に流れる日向川から水を汲み上げて散水しながら遺構の掘り下げにかかった。8月16日より調査区の西半部の調査にかかったが、北西方向に向かってゆるやかな谷となっており遺物の再堆積した層の掘り下げに多大な労力を要した。

IV 遺構と遺物

1 検出遺構

獨立柱建物

SB01 (第3図、図版5)

調査区の東側中央で検出した。梁間2間、桁行2間の南北棟の建物である。梁間の全長3.0m、桁行の全長5.6mを測る。柱穴は円形で径20~50cm、深さ10~30cmを測る。方位はN-5°-Eにとる。

SB02 (第3図、図版5・6)

調査区の東側で検出した。梁間1間、桁行3間の南北棟の建物である。梁間の全長2.7m、桁行の全長4.8mを測る。柱穴は円形で径20~45cm、深さは20~30cmを測る。方位はN-4°-Eにとる。

SB03 (第3図、図版5・6)

調査区のはば中央部でSB04と重複して検出した。梁間2間、桁行3間の南北棟の建物である。梁間の全長4.1m、桁行の全長6.6mを測る。柱穴は円形で径14~36cm、深さ6~18cmを測る。方位はほぼ真北にとる。

SB04 (第3図、図版5・6)

調査区のはば中央部でSB03と重複して検出した。梁間2間、桁行3間の南北棟の建物である。梁間の全長4.4m、桁行の全長6.5mを測る。柱穴は円形で径14~24cm、深さは10~32cmを測る。方位はほぼ真北にとる。

SB05 (第4図、図版5・6)

調査区のはば中央部で検出した。梁間1間、桁行2間の南北棟の建物である。梁間の全長4.0m、桁行の全長6.9mを測る。柱穴は隅丸方形で径65~120cm、深さ15~35cmを測る。方位はN-30°-Eにとる。

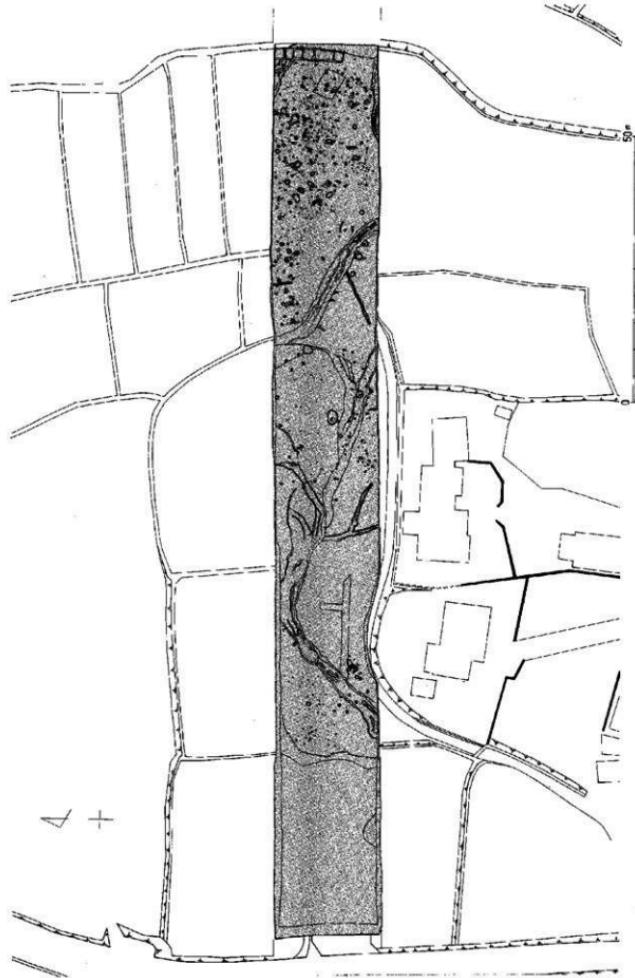
SB06 (第4図、図版5・6)

調査区のはば中央部で検出した。梁間2間、桁行3間の南北棟の建物である。梁間の全長3.2m、桁行の全長3.8~4.5mを測る。柱穴は円形で径30~40cm、深さ15~25cmを測る。方位はほぼ真北にとる。

SB07 (第4図、図版5)

調査区の中央部よりやや北側で検出した。梁間1間、桁行2間の南北棟の建物である。梁間の全長2.4m、桁行の全長4.1mを測る。柱穴は円形で径25~30cm、深さ10~25cmを測る。方位はほぼN-8°-Eにとる。

第2回 太田遺跡第1次調査標記図



SB08 (第4図、図版5)

調査区の中央部北端で検出した。梁間1間、桁行1間以上の南北棟の建物である。北側は調査区外に延びる。梁間の全長2.4m、桁行の全長2.1m以上を測る。柱穴は隅丸方形で径53~90cm、深さ18~32cmを測る。方位はほぼN-28°-Eにとる。

SB09 (第5図、図版5)

調査区の中央部のやや北寄りで検出した。梁間1間、桁行1間以上の南北棟の建物である。北側は調査区外に延びる。梁間の全長2.9m、桁行の全長2.5m以上を測る。柱穴は隅丸方形で径45~90cm、深さ17~40cmを測る。方位はほぼN-18°-Wにとる。

SB10 (第5図、図版5)

調査区の中央部北端の東寄りで検出した。梁間2間、桁行1間以上の南北棟の建物である。北側は調査区外に延びる。梁間の全長5.8m、桁行の全長2.2m以上を測る。柱穴は隅丸方形で径50~100cm、深さ18~40cmを測る。方位はほぼN-10°-Wにとる。

SB11 (第5図、図版5)

調査区の中央部の東寄りで検出した。梁間1間、桁行1間の南北棟の建物である。梁間の全長2.0m、桁行の全長2.5m以上を測る。柱穴は円形で径40~50cm、深さ20~30cmを測る。方位はほぼN-28°-Wにとる。

SB12 (第5図、図版3)

調査区の中央部のやや南寄りで検出した。梁間1間、桁行2間の東西棟の建物である。梁間の全長1.9m、桁行の全長4.6~4.9mを測る。柱穴は円形で径25~70cm、深さ22~40cmを測る。方位はほぼ東西にとる。

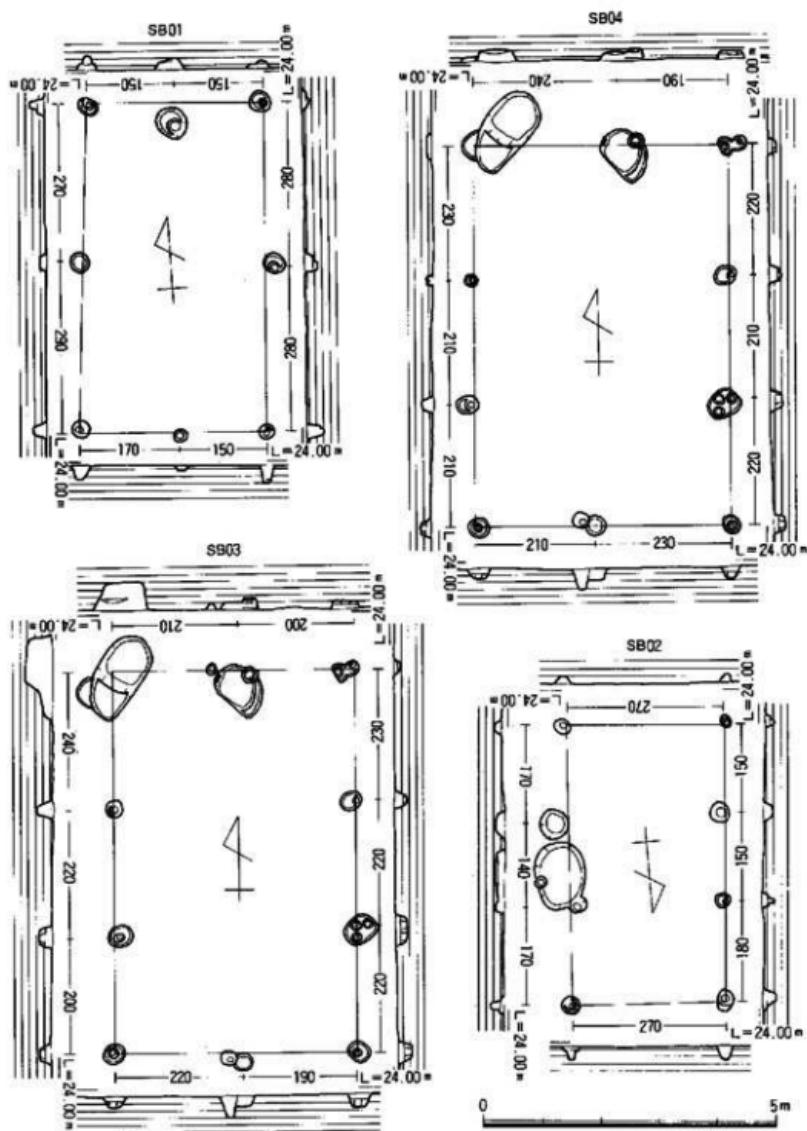
SB13 (第5図、図版3)

調査区の西側で検出した。梁間1間、桁行1間の建物である。梁間の全長2.0m、桁行の全長2.8mを測る。柱穴は円形で径40~55cm、深さ27~33cmを測る。方位はN-45°-Wにとる。

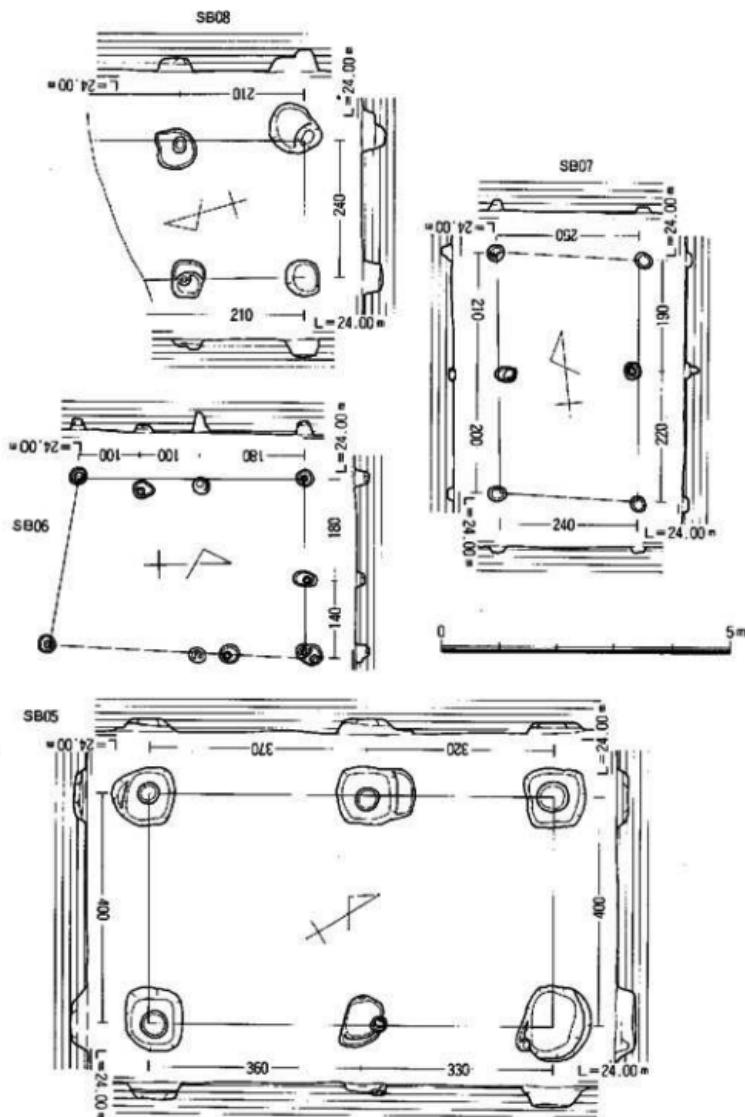
豊穴住居跡

SC01 (第6図、図版6・7)

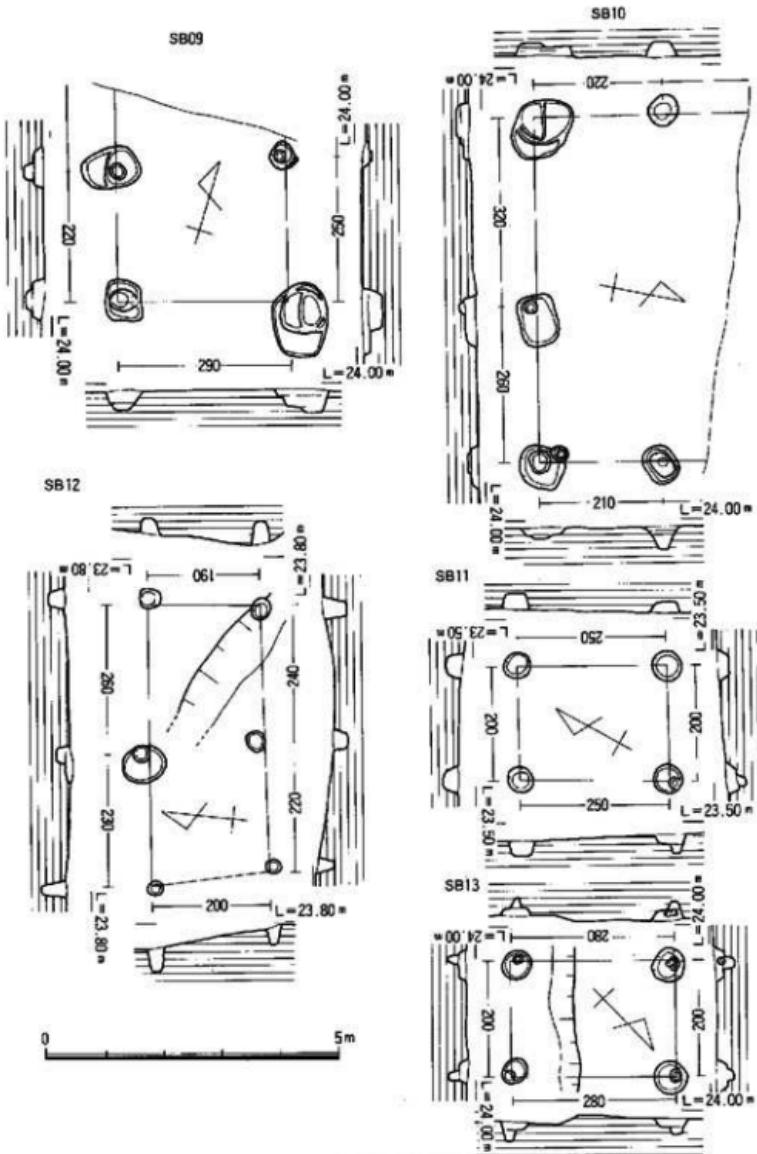
調査区の東端で検出した。方位をN-30°-Eにとる長方形の建物である。東西の長さ3.8m、南北の長さ5.2m、後世の削平により残存する壁の高さは3~4cmを測る。主柱穴は2本とみられP1、P2が相当しよう。柱穴P1の径は40cm、深さ26cm、P2の径は46cm、深さ29cmを測り、平面形はいずれも円形を呈する。P1~P2間の心々距離は250cmを測る。炉は106cmの不整円形で、P1~P2のP1よりに配されていた。西辺に突出部がみられるが、ベッド状遺構に伴うものであろうか。



第3図 堀立柱建物実測図 (I)



第4図 堤立柱建物実測図 (2)



第5図 摺立柱建物実測図 (3)

土壤

SK01 (第7図)

調査区の北側の東寄りで検出した。平面形は不整形を呈し、全長2.6m、幅1.3m、深さは中央部で8cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK02 (第7図)

調査区の東寄りで検出した。平面形は橢円形を呈し、全長1.9m、幅0.9m、深さは中央部で10cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。方位はN-26°-Eにとる。

SK03 (第7図)

調査区の南側の東寄りで検出した。平面形は隅丸方形を呈し、全長0.8m、幅0.4m、深さ6cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。方位はN-16°-Eにとる。

SK04 (第7図)

調査区の南側の東寄りで検出した。平面形は不整橭円形を呈し、全長1.3m、幅1.0m、深さ75cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。方位はN-21°-Wにとる。

SK05 (第8図)

調査区の中央部の北側で検出した。平面形は不整形を呈し、全長1.1m、幅1.1m、深さ14cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK06 (第8図)

調査区の中央部の東側で検出した。平面形は不整形を呈し、全長1.0m、幅0.8m、深さ10cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK07 (第8図)

調査区の中央部の東側で検出した。平面形は不整円形を呈し、径1.3m、深さ16cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK08 (第8図)

調査区の中央部の東側で検出した。平面形は不整形を呈し、径1.7m、深さ12cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK09 (第8図)

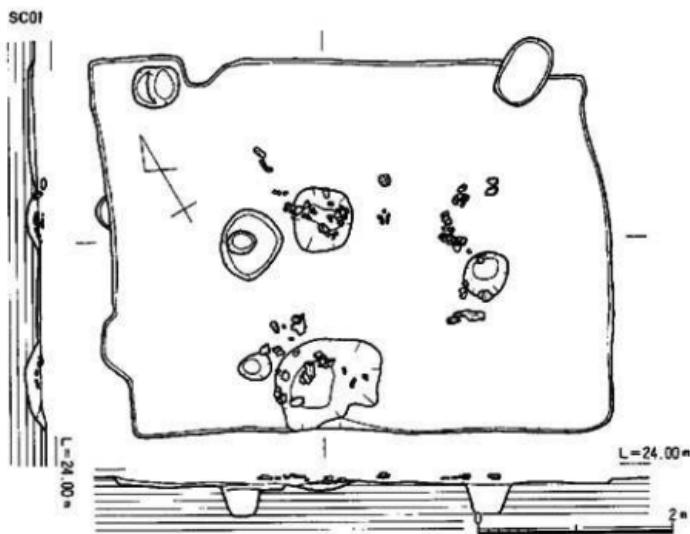
調査区の中央部の北寄りで検出した。平面形は不整形を呈し、全長1.7m、幅1.3m、深さ20cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK10 (第8図)

調査区のはば中央部で検出した。平面形は不整形を呈し、全長1.1m、幅1.0m、深さ6cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK11 (第9図)

調査区のはば中央部の南側で検出した。平面形は橢円形を呈し、全長1.4m、幅1.1m、深さは



第6図 竪穴住居跡実測図

中央部で52cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。方位はN-12°-Eにとる。

SK12（第9図）

調査区のほぼ中央部で検出した。平面形は不整形を呈し、全長2.8m、幅1.9m、深さは中央部で9cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK13（第10図）

調査区の東端部で検出した。全長2.8m、幅1.9mの溝状の土壙で、断面形は南北方向では北に向かって階段状に低くなっている、東西方向では壁は直に立ち上がる。近代の瓦用粘土探掘坑で埋土からは、多量の瓦・瓦質土器の破片のほか肥前系磁器・土師器小皿が出土している。

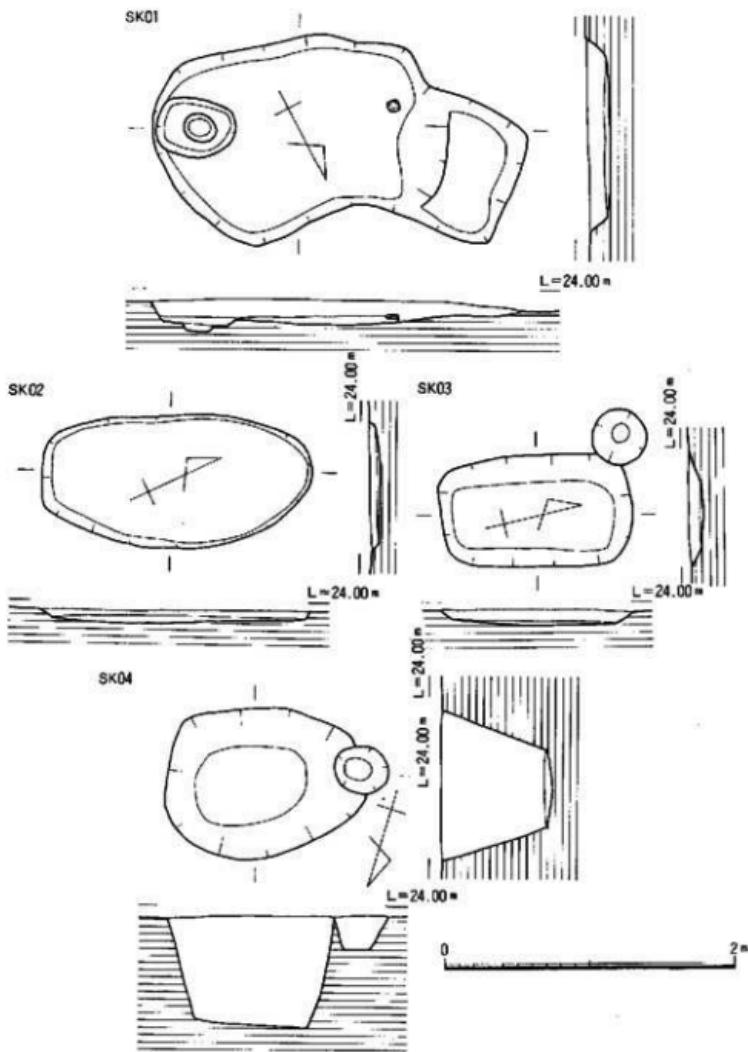
溝

SD02（第11図）

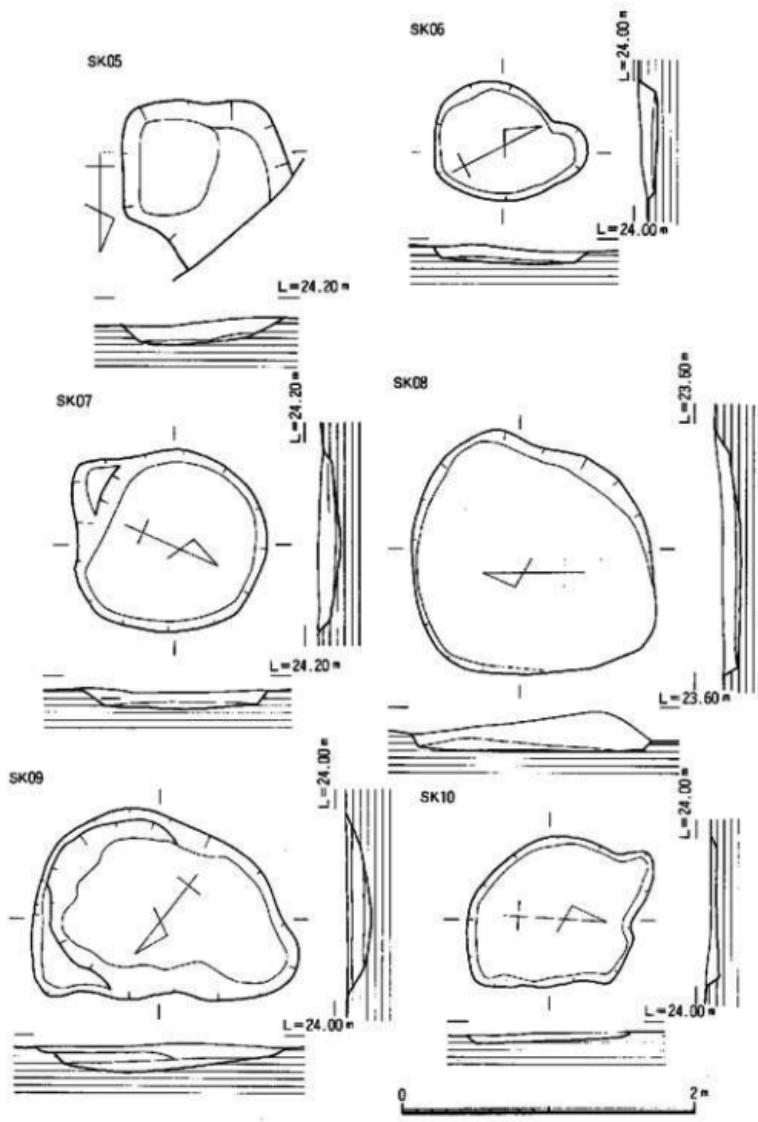
調査区の東側の南壁際で検出した東西溝である。溝の上端幅1.0~1.5m、底幅0.6~0.8m、深さ0.1~0.3mを測る。北側に礫群が底面より5cm前後浮いた状態で出土している。護岸用に積まれた礫群崩れ落ちたものとみられる。

SD01（第11図、図版8）

調査区の東北隅で検出した東西溝である。両端とも調査区外に延びている。SB05、SC01と同じく、方位をN-30°-Eにとる。溝の上端幅0.8~2.0m、底幅0.2~1.2m、深さ0.2~0.4mを測る。土師器が底面より破碎された状態で出土している。

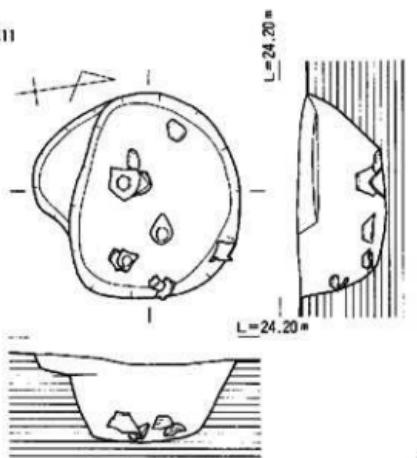


第7図 土壌実測図 (i)



第8図 土壌実測図 (2)

SK11

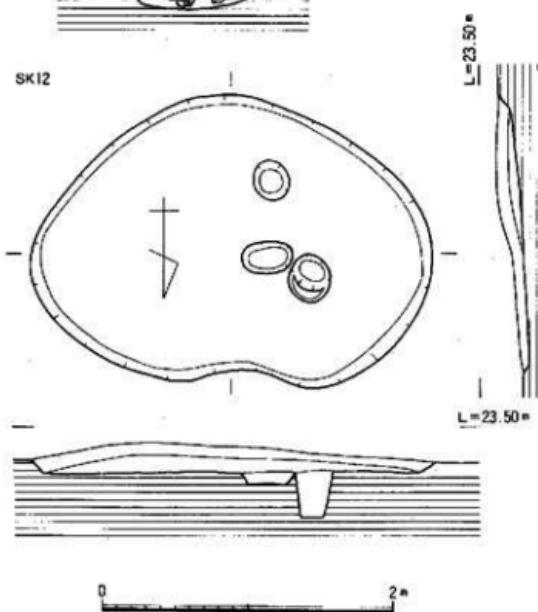


**SD10 (第12
図、図版9~11)**

調査区の西側で
検出した。南西か
ら東北方向に延び
さらに東に屈曲す
る溝である。幅2.
4~3.0m、深さ
30~40cmを測る。
以下、調査区南壁、
溝を三区分（南か
ら I 区・II 区・III
区）する土層観察
のための畦、屈曲
部（以東を IV 区）
の土層堆積状況を
示す。

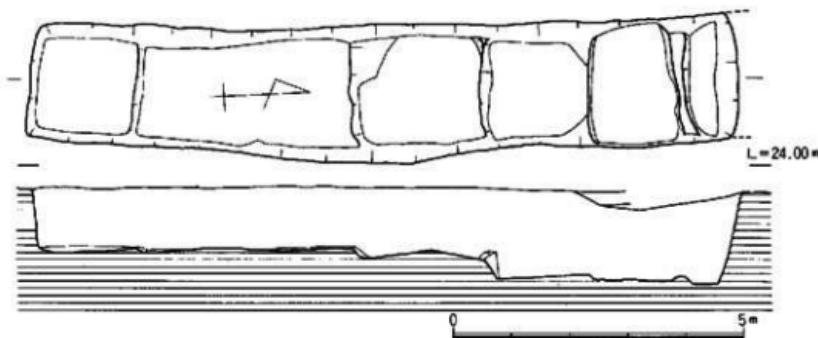
I 区 南壁 I
層—耕作土、II
層—床土、III 層—
灰色シルト（微
砂）、IV 層—灰褐色
粗砂、V 層—黒褐色
土（白色・橙色
等バイラン土粒子
及び炭化物、礫、
遺物を多量に含
む）、VI 層—黒褐色
土—V 層よりやや
明るい（粒子が V

SK12



第9図 土壌実測図(3)

層より少ない）、VII 層—灰黑色シルト、VIII 層—暗褐色粘質土、IX 層—褐色粘質土、X 層—明褐色
粘質土、XI 層から XII 層は類似している。XI 層—暗黄褐色粘質土（地山粘質土が若干よごれた
感じ）、XII 層—黒褐色粘質土（炭化物を含む）、XIII 層—灰褐色粘質土、XIV 層—黒褐色粘質



第10図 土壌実測図 (4)

土、Ⅴ層—灰褐色シルト（地山シルトが若干よごれた感じ）。

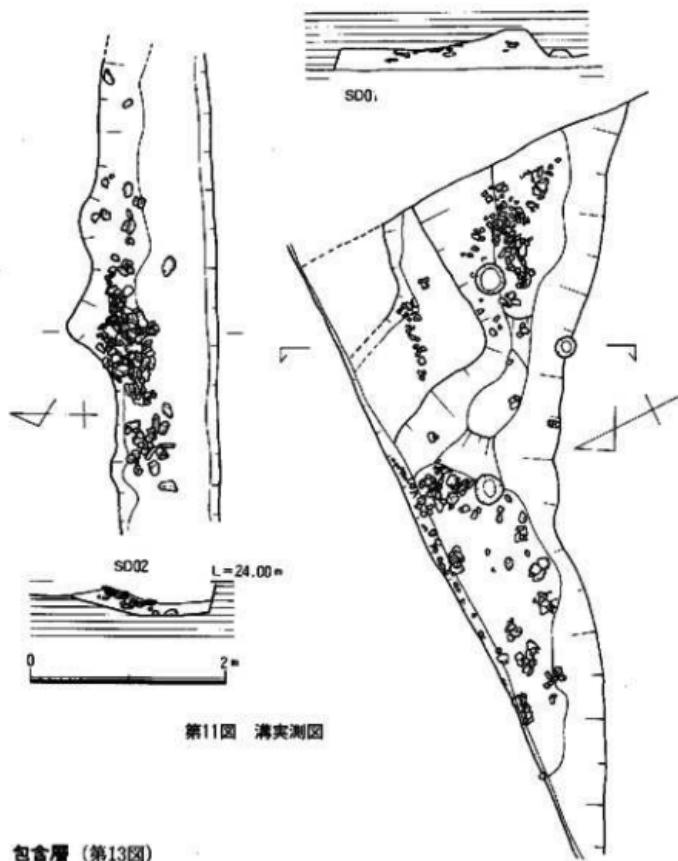
II区南壁 I層—黒褐色土（白色・橙色等バイラン土粒子及び炭化物、礫、遺物を多量に含む）、II層—I層よりやや明るい（粒子がI層より少ない）。III層—II層より明るい（シルト+粘質土）、IV層—灰黑色シルト、V層—黒褐色粘質土（III層と同土質でやや暗い）、VI層—砂礫（鉄・マンガンの沈着は顕著ではない）、VII層—黒色土（粘土+シルト）、VIII層—暗黄褐色粘質土。

III区南西壁 I層—黒褐色土（白色・橙色等バイラン土粒子及び炭化物、礫、遺物を多量に含む）、II層—暗黒褐色（シルト+粘質土）、III層—灰黑色シルト、IV層—砂礫（鉄・マンガンの沈着は顕著ではない）。

IV区北壁 I層—黒褐色土（白色・橙色等バイラン土粒子及び炭化物、礫、遺物を多量に含む）、II層—暗黒褐色（シルト+粘質土）、III層—灰黑色シルト、IV層—砂礫（鉄・マンガンの沈着は顕著ではない）。V層—暗褐色粘質土（地山のよごれた土）。

SX01 (第12図、図版11)

B-22~23グリッド南壁で検出した。井戸の可能性がある。以下、土層堆積状況を示す。I層—褐色土（表土）、II層—黒褐色土（表土）、III層—橙色土（水田底土）、IV層—褐色土、V層—黒褐色砂質土、VI層—細砂（黒色味を帯びた）、VII層—細砂（鉄分沈着のみられる）、VIII層—細砂、IX層—細砂（小さな砂礫混じり）、X層—褐色土、XI層—細砂（粘質をもちシルトに近い）、XII層—やや黒ずんだ地山粘土（黄褐色粘土）、XIII層—粗砂。



第11図 溝実測図

包含層（第13図）

谷部に相当するA-10~16グリッドでは、遺物包含層がみられた。いずれも2次堆積によって形成されたもので、プライマリーな状態ではない。調査区北壁の土層堆積状況（東西方向）を示す。I層-表土、II層-表土（I層より堅緻）、III層-水田床土、IV層-暗褐色砂質土、V層-淡暗褐色砂質土、VI層-黒褐色砂質土、VII層-黒褐色粘質土、VIII層-灰白色シルト、IX層-黒色粘質土、X層-黄褐色粘質土、XI層-淡褐色シルト、XII層以下は地山である。XII層-灰褐色シルト（鉄分混じり）、XIII層-淡黄褐色粘質土（鉄分混じり）、XIV層-砂礫、XV層-淡褐色粘質土。以下、二分した調査区の境にあたるA-B-グリッド西壁の土層堆積状況（南北方向）を示すが、土色は調査区北壁の土層堆積状況に準ずる。

第12图 深层实测图

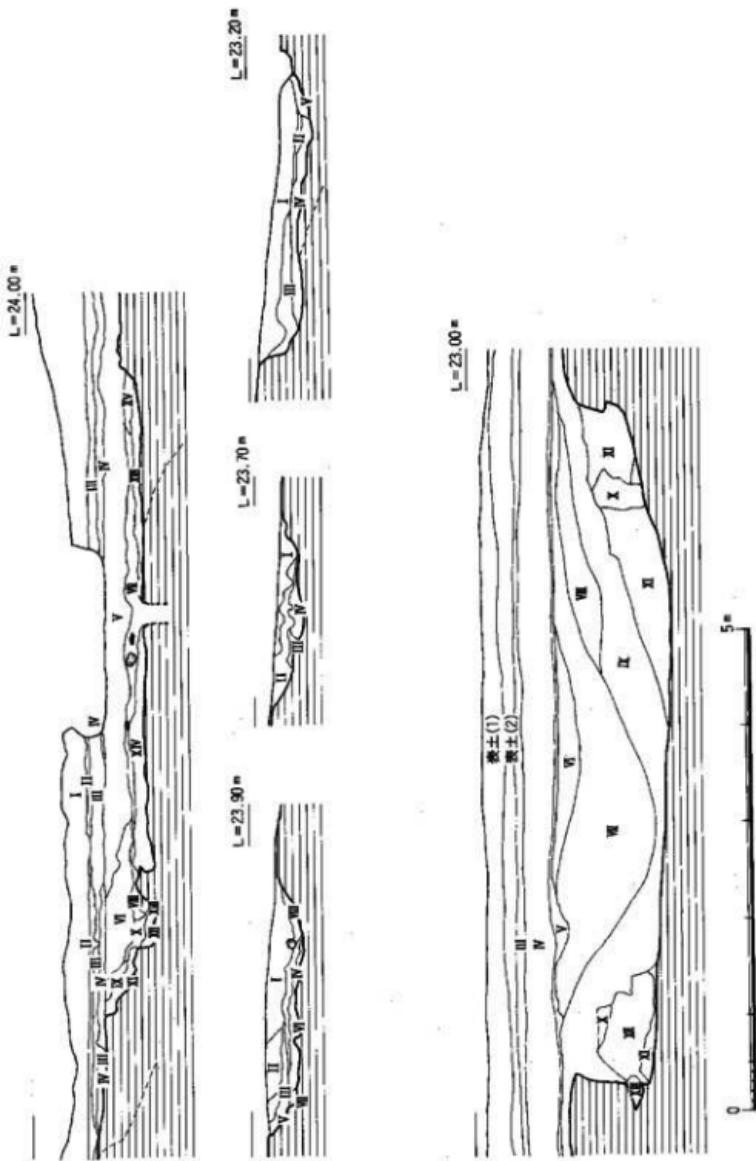
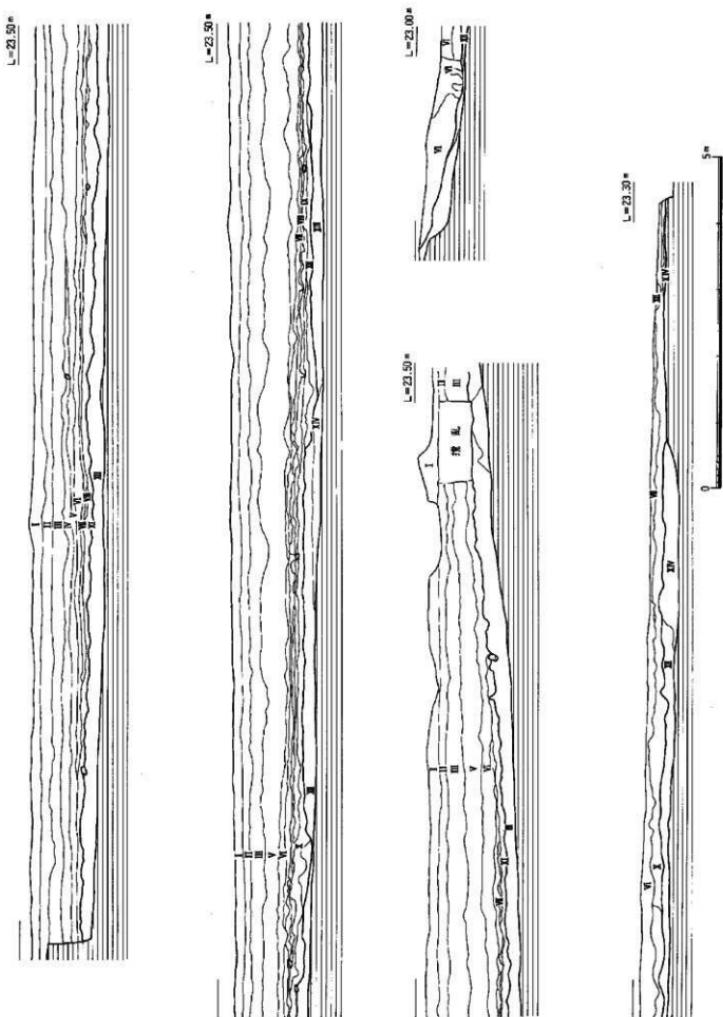


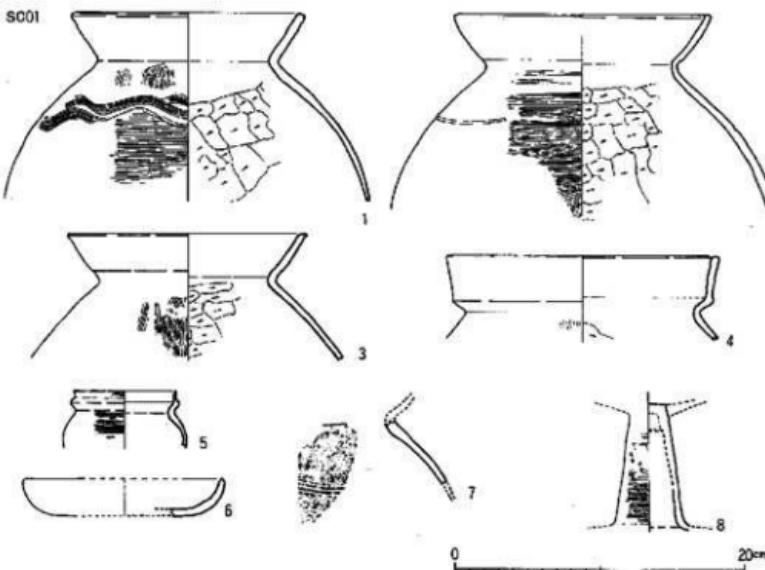
图3图 包含断层测图



出土遺物

件番号	遺物種類 器 様	形態の特徴	調 整	基 土	焼 成	色 調	備 考
1	土師器支	球形の側部に外掛汽 瓶に立ち上がる口部 部をもつ。	口縁部、腹ナデ。肩部外曲、ハケメ後 模ナデ。側部外曲上半、ハケメ、腹部 下平外曲、ハケメ、内面、ヘラケズリ。	砂粒を多量に 含む。	良好。	外面、淡黄色 ～褐色、内 面淡赤褐色。	肩部に波状文 を施す。
2	土師器蓋	球形の側部に外掛汽 瓶に立ち上がる口部 部をもつ、端底内凹。	口縁部、腹ナデ。肩部外曲、ハケメ後 模ナデ。側部外曲上半、ハケメ、側部 下平外曲、ハケメ、内面、ヘラケズリ。	砂粒を多量に 含む。	やや不良。	淡黄褐色～淡 褐色。	
3	上斜器蓋	球形の側部に外掛汽 瓶に立ち上がる口部 部をもち、端底水平。	口縁部、腹ナデ。肩部外曲、ハケメ後 模ナデ。側部外曲上半、ハケメ、腹部 上平外曲、ハケメ、内面、ヘラケズリ。	砂粒を多量に 含む。	やや不良。	淡黃褐色～黑 褐色。	
4	上斜器蓋	直立火瓶に立ち上が る二重口瓶。	口縁部、腹ナデ。肩部外表面、ハケメ後 模ナデ。	砂粒を少量含 む。	良好。	淡灰褐色。	
5	土器器蓋	直立火瓶に立ち上が る二重口瓶の小品。	口縁部、腹ナデ。肩部外曲、ハケメ後 模ナデ。側部外曲上半、ヘラミガキ。 口縫部内面、側部内曲上半、模ナ デ。	純良。	良好。	明赤褐色。	
6	土器器身	浅鉢形を呈する。	口縫部、腹ナデ。側部外曲下半、ヘラ ミガキ。底部ヘラケズリ。	純良。	やや不良。	外面、淡褐色 ～褐色、内 面、淡黃褐色。	
7	上斜器蓋		口縫部、腹ナデ。側部外曲、ハケメ後 模ナデ。側部外曲上半、ハケメ、側部 上平外曲、ハケメ、内面、ヘラケズリ。	砂粒を多量に 含む。	良好。	外面、淡褐色 ～褐色、内 面、淡黃褐色。	肩部片。
8	土器器身	基盤内側部の脚柱部。	脚柱外曲、ハケメ後模内ハラミガキ。 内面、腹部、ハケメ。	精良。		明赤褐色。	脚部片。

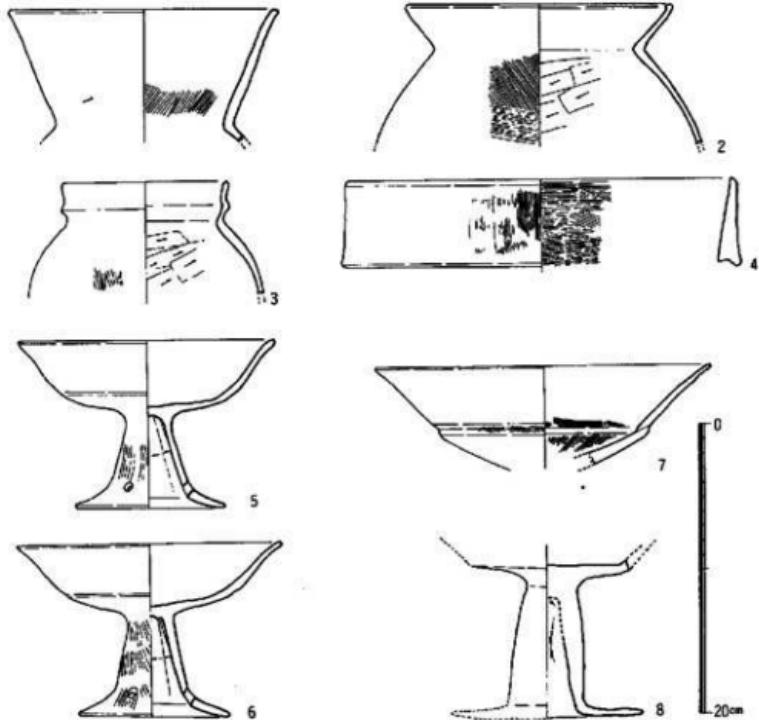
第1表 SC01堅穴住居跡出土遺物観察表



第14図 SC01堅穴住居跡出土遺物実測図

博物番号	遺物種類	形態的特徴	調 整	胎 土	焼 成	色 調	備 考
1	土師器皿	ゆるく外反してのびる口縁部。	口縁部外側、横ナデ、内側、ハケメ後、横ナデ。		良好。		
2	土師器皿	球形の断面に外湾寄り、底に立ち上がる口縁部をもち、底部内向。	口縁部、横ナデ、肩部外側、ハケメ後、横ナデ。肩部外端上半、ハケメ。腹部上外側、ハケメ、内側、ヘラケズリ。	多い砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	
3	土師器皿	球形の断面に直立気味に立ち上がる口縁部。	口縁部外側、ハケメ後横ナデ、内側、横ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
4	土師器皿	直立気味に立ち上がる直口縁。	口縁部外側、ハケメ後横ナデ、内側、横ナデ。	砂粒を含む。	良好。	明赤褐色。	外面に黒斑跡あり。
5	土師器皿	純い屈曲をもつ瓶部に、不規則に施加する痕跡。	杯部、内外面とも磨滅。脚柱部外側、ハケメ、内側、ヘラケズリ。	砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	脚柱部と瓶部の境の屈曲部に穿孔あり。
6	土師器皿	純い屈曲をもつ瓶部に、不規則に施加する痕跡。	杯部、内外面とも磨滅。脚柱部外側、ハケメ、内側、ヘラケズリ。	砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	脚柱部と瓶部の境の屈曲部に穿孔あり。
7	土師器皿	口縁部は曲面し、内外とも既かつく杯部、瓶柱部は水平に削ぎ直して広がる。	口縁部、内外面とも磨滅。底部内側、ハケメ、内側、ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	
8	土師器皿	瓶柱部は中膨らみで、瓶部は水平に削ぎ直して広がる。	脚柱部外側～瓶部、ナデ。脚柱部内面下半、横ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	

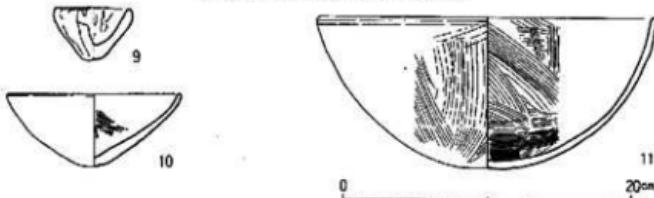
第2表 SD01溝出土遺物観察表(I)



第15図 SD01溝出土遺物実測図 (I)

探査番号	遺物種類 器	形態の特徴	調 整	粘 土	焼 成	色 調	備 考
9	土器器	手足の小型品。	外面、ヘラナ。内面、指ナ。	精良。	良好。	黄褐色。	
10	土器器	口幅15cm、底径5cmとし、口径が器高の約2倍を測る。	口縁部、底ナ。脚部外側、ナナ。内面、ハケメ。脚部外側、ヘラナ。	砂粒を含む。	良好。	明赤褐色。	器表の口以上を素地が覆う。
11	土器器	口幅15cmを測り、半球形を呈する。	口縁部、ハナ。後根ナ。脚部外側、粗粒なハケメ。内面ハケメ。	砂粒を多量に含む。	良好。	黄白色。	内面に黒斑部あり。

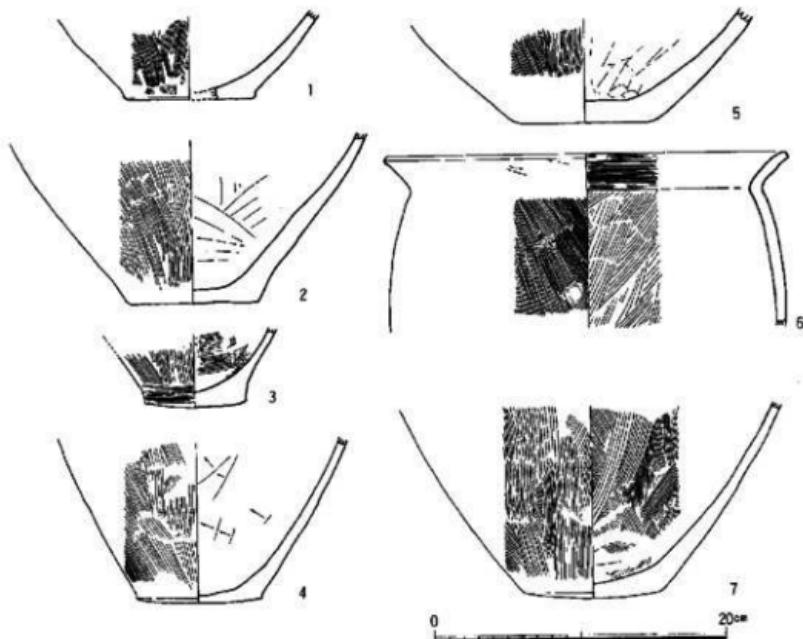
第3表 SD01溝出土遺物観察表(2)



第16図 SD01溝出土遺物実測図 (2)

探査番号	遺物種類 器	形態の特徴	調 整	粘 土	焼 成	色 調	備 考
1	陶生土器	手底の底部片で、端部は丸みをもつ。	外面、底部までハケメ。内面、磨成。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
2	陶生土器	底の底部片で、端部は丸みをもつ。	外面、底部付近までハケメ。内面、ナナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡黃白色。	内外面とも黒斑部あり。
3	陶生土器	変レンズ状底平盤の底盤片。	外面、底部付近までハケメ。内面、ナナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
4	陶生土器	変レンズ状底平盤の底盤片。	外面、底部付近までハケメ。内面、ヘナナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	外面に黒斑部あり。
5	陶生土器	底の底部片で、立ち上がりは直線的。	外面、底部付近までハケメ。内面、ナナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	外面に黒斑部あり。
6	陶生土器	矧く底面に「く」の字形を有する。	口縁部外側、表ナナ。内面、ハケメ。脚部上部外側、ハケメ。内面、粗いハケメ。底部ナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	外面に黒斑部あり。
7	陶生土器	変レンズ状底平盤の底盤片で、立ち上がりは直線的。	脚部内外側とも、ハケメ。底部ナナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
8	陶生土器器合	不明瞭なくびれ部をもつ、円筒形容器。	外面、受部、脚部内側、ハケメ。くびれ部内側、指ナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
9	陶生土器器合	不明瞭なくびれ部をもつ、円筒形容器。	外面、ハケメ。内面は、受部、煮ナナ。脚部ナナ。(くびれ部ナケメ)、脚部上半段ナナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	暗赤褐色。	
10	陶生土器器合	不明瞭なくびれ部をもつ、円筒形容器。	外面、ハケメ。内面は、受部、煮ナナ。脚部上半段ナナ、下半ハナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	赤褐色。	
11	陶生土器器合	不明瞭なくびれ部をもつ、円筒形容器。	外面、ハケメ。内面は、受部、煮ナナ。脚部上半段ナナ、下半ハナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	やや灰褐色を帯びた黄褐色。	
12	陶生土器器合	不明瞭なくびれ部をもつ、円筒形容器。	外面、ハケメ。脚部、後根ナ。内面は、上半、ヘラナ。下半、煮ナナ。	砂粒を多量に含む。	やや不良。	黄褐色。	受部焼失。
13	陶生土器	舌形支溝。	外面上部へ内面上半、煮ナナ。外面下部、内面下半、ハケメ。	砂粒を少量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
14	土器器	手捏ねの小型品。	外面、ヘラナ。内面、指ナ。	精良。	良好。	淡黃褐色。	上面出土。
15	陶生土器器合	脚部は底部により分離され、上から3枚目に分離する。	受部内面、断面形状カーラナ。中央部脚部、外面、ハケメ煮ナナ。脚部外側、ヘラ煮ナナ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	やや灰褐色を帯びた黄褐色。	脚部に沈着を有し、内区向外方より穿孔。
16	陶生土器器合	脚部は底部により分離され、中2段目に分離する。	受部内面、断面形状カーラナ。外面、脚部外側、ヘラ煮ナナ。内面、煮ナナ。	精良。砂粒を含む。	良好。	黄褐色。	脚部に沈着を有し、内区向外方より穿孔。

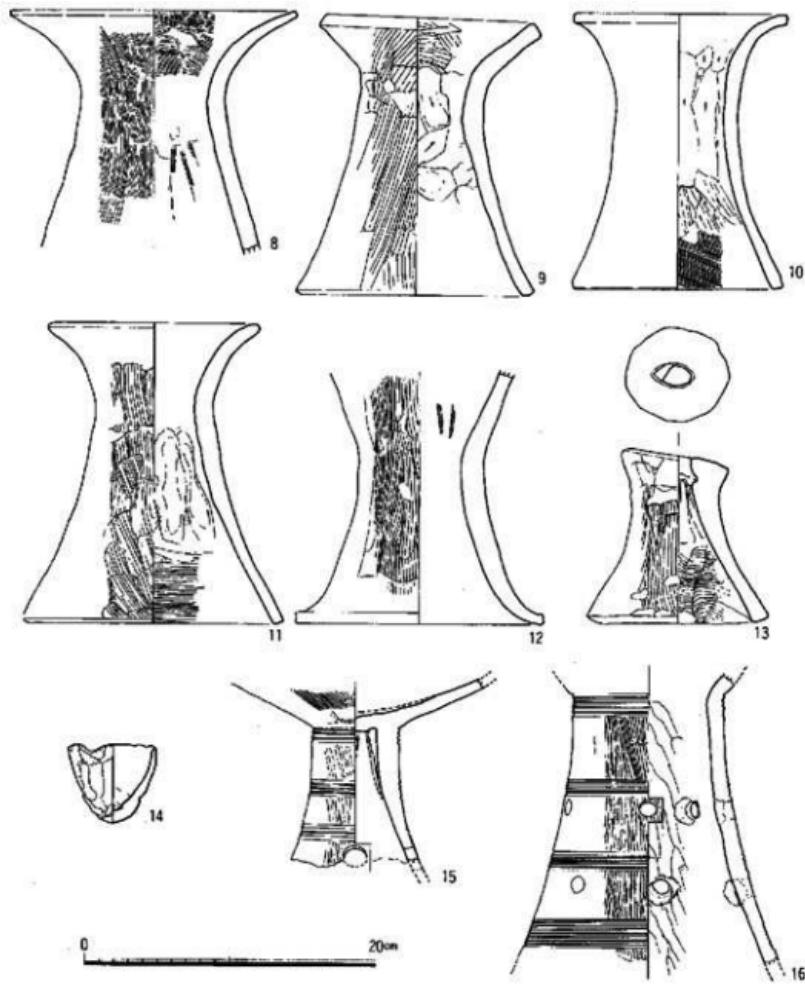
第4表 SD04溝出土遺物観察表(1)



第17図 SD04溝出土遺物実測図 (I)

探査番号	遺物種類 基	形態の特徴	調 整	胎 土	焼 成	色 調	備 考
1	土師容器	球形の腹部に、内凹する口縁をもつ。	口縁部、ヘライア。腹部下半、ヘク崩り。	砂粒を含む。	良好。	明赤褐色。	
2	土師器皿	球形の腹部に外沟気味に立ち上がる口縁部をもち、底部水平。	口縁部、ヘナナ。腹部外側、ハケノ後筋ナナ。腹部外側上半、ハケノ、内面、ヘク崩り。	砂粒を多量に含む。	良好。	外黑、淡黄褐色、内赤、青褐色。	外側に擦付層。
3	土師容器	薄片部は円錐状を呈し、底部は水平に削曲して立てる。	調柱部内面はヘク崩り。その他の部位は磨滅により不明。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	赤色擦付を有す。
4	器生土器皿	平底の底盤に、直線的な立ち上がりの調柱部下平。	調柱部外側、ハケノ後ヘナナ、内面、ヘナナ。底部内外面とも、ハケノ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
5	発生土器皿	突レンズ状平底の底盤部で、直線的な立ち上がりの調柱部下平。	調柱部内外面とも、ハケメ。底盤ナナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡黄褐色。	外側に黒安部あり。
6	発生土器皿	下盤の底盤に、直線的な立ち上がりの調柱部下平。	調柱部外側、ハケメ、内面、底盤ナナ、底盤内面、ナナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	
7	土師器皿	外沟気味にのびる二重口縁を有する。	口縁部内面から外面全体にかけて、ヘナナ、口縁部内面、ハケノ。腹部内面、ヘク崩り。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡黄褐色。	腹側に水口による窓状文を残す。
8	土師器皿	薄片容器。	調柱部外側、ハケノ後筋ナナ、内面、丁寧なナナ。背部、ナナ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
9	土師器皿	直線的にのびる脚部に、口縫12cmの脚部を有する。薄片容器。	口縫部、横ナナ。杯部外側、ハケメ後筋ナナ。内面、ハケノ。下手はハケメ後ナナ。脚部ナナ、内面はハケメ後。	朝食。砂粒を少量含む。	良好。	淡赤褐色。	

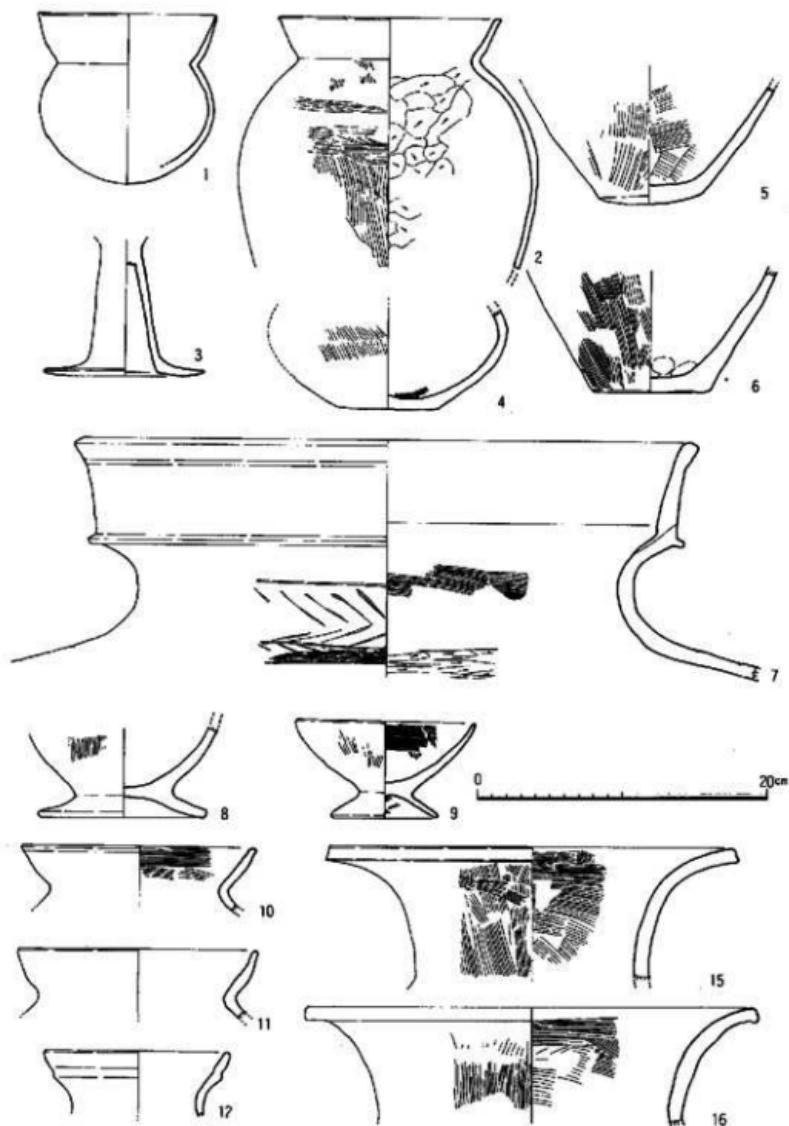
第5表 SD01溝出土遺物観察表(I)



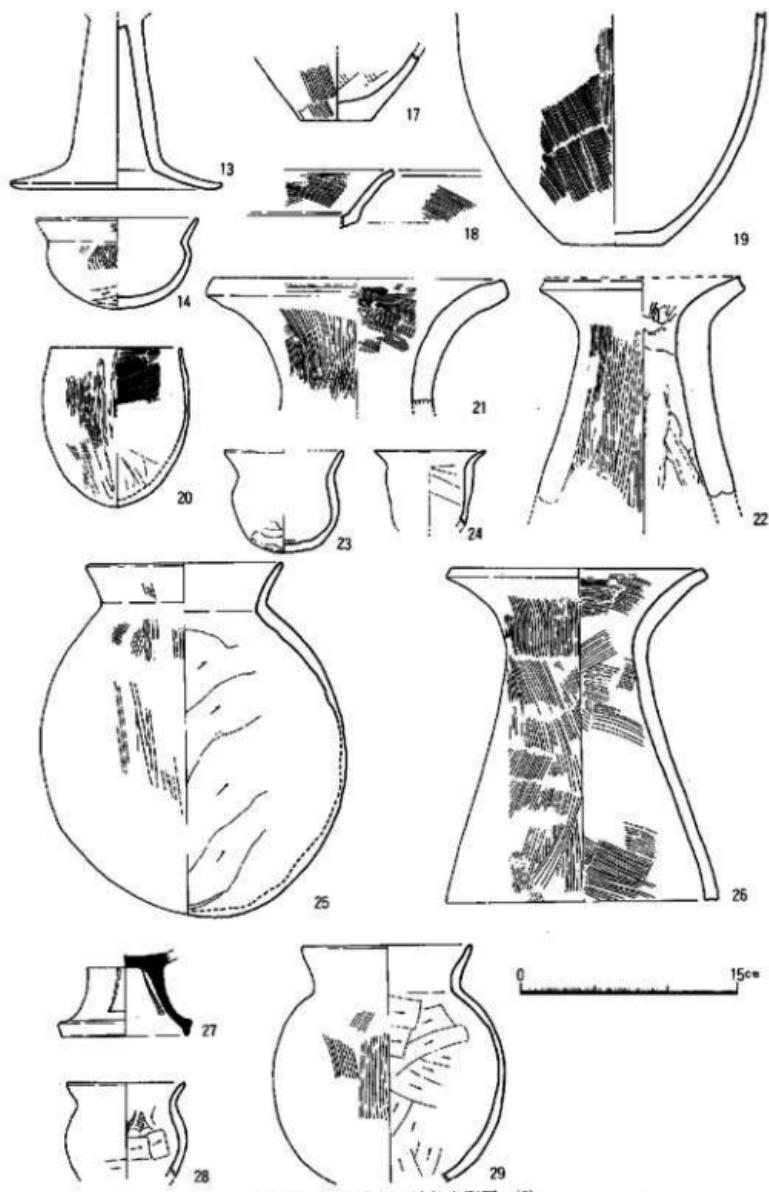
第18図 SD04溝出土遺物実測図 (2)

神社番号	遺物種類	形態の特徴	測 縦	胎 土	變 成	色 彩	備 考
19	土師器甕	外周気泡に立ち上がる口縁部。端部水平。	口縁部外側、裏ナデ、内面、ハケメ後縁ナデ。底部内面、ヘラ削り。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡灰褐色。	
11	土師器甕	外周気泡に立ち上がる口縁部。端部内凹。	口縁部、裏ナデ。	細い砂粒を含む。	良好。	明赤褐色。	
12	土師器甕	外周気泡にのびる二重口。	口縁部、裏ナデ。	砂粒を含む。	良好。	明赤褐色。	
13	土師器甕杯	両柱足は同形状を呈し、腹部は屈曲して広がる。	両柱足外側、ナデ、内面、ヘラ削り。腹部外側、横ナデ、内面、ヘラナデ。	粗い砂粒を含む。	良好。	淡青褐色。	脚部片。
14	土師器甕	椎円形の腰部に外寄してゆるくひらく口縁部を有する。	口縁部から腰部上半にかけて、ハケメ。腰部下半、ヘラ削り。底部内面、腹底により不明。底部内面、木口孔。	粗かい砂粒を含む。	良好。	明赤褐色。	
15	东生土器甕	腹底がすさまじく、口縁部は外にする。	口縁部、裏ナデ。口縁下内面、ハケメ後縁ナデ。底部、ハケメ。	細い砂粒を含む。	良好。	淡灰褐色。	
16	东生土器甕	腹底は広く、口縁部は外にする。	口縁部、裏ナデ。口縁下内面、ヘラナデ、外側、ハケメ後縁ナデ。腹部、ハケメ。	粗い砂粒を含む。	良好。	淡青褐色。	
17	东生土器	平底の直腹から内湾気泡に立ち上がる脚部下。	内外面ともにハケメ。	粗い砂粒を含む。	良好。	淡赤褐色。	
18	东生土器	既崩し、外祝してのじる口縁部。	内外面ともにハケメ。	砂粒を多量に含む。	良好。	橙褐色。	
19	东生土器	平底の直腹で、脚部は丸みをもつ。	外腹、底付迄までハケメ。内面、ナデ。	砂粒を含む。	良好。	淡灰褐色。	
20	十脚器甕	袋足部分の腰部の底、外縁部下、横ナデ。上半、ハケメ。内面：上半、ハケメ。下半、ヘラナデ。	砂粒を含む。	良好。	黑色を帯びた赤褐色。	外底部に黒変部あり。	
21	东生土器甕合	不規則なくびれ部をもつ、内面が跡合上、ナデ。	口縁部、横ナデ。外腹：ハケメ。内面：受盤、ハケメ。くびれ部、ナデ。	細い砂粒を含む。	良好。		
22	东生土器甕合	不規則なくびれ部をもつ、内面が跡合上。	受盤、横ナデ。脚部、外腹、ハケメ。内面、ナデ。	細粒、砂粒を少量含む。	やや不良。	淡灰褐色。	破損欠失。
23	上野西町	手挽ねの小判品。	口縁部、横ナデ。体部、ナデ。外腹底、ヘラ削り。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡黄褐色。	
24	土師器甕	手挽ねの小型品。	口縁部、横ナデ。体部、ナデ。	砂粒を含む。	良好。	明褐色。	
25	土師器甕	蝶形の腰部にゆるく外反してのびる口縁部を有する。	口縁部：外腹、ハケメ後縁ナデ。内腹、横ナデ。腹部、外腹上半、ハケメ。ナデ底へくびれ後ナデ。内面、ヘラ削り。	砂粒を少量含む。			外底部に冠付石。
26	东生土器甕合	不規則なくびれ部をもつ、内面が跡合上。	横ナデ。内面：ハケメ。内面：くびれ部、ナデ。その他の脚部ハケメ。	砂粒を多量に含む。	良好。		
27	須磨器甕	二方に方眼の透かし孔をもつ脚部。	脚部、内外面ともに横ナデ。	細かい砂粒を多量に含む。	良好。	灰色。	
28	土師器甕	小判品。	口縁部・脚部内外面上半、横ナデ。脚部外由、ヘラナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡青褐色。	
29	土師器甕	蝶形の腰部にゆるく外反してのびる口縁部を有する。	口縁部：横ナデ。脚部：外腹、ハケメ。内面、ヘラ削り。	砂粒を多量に含む。	良好。	明赤褐色。	

第6表 SD10溝出土遺物観察表(2)



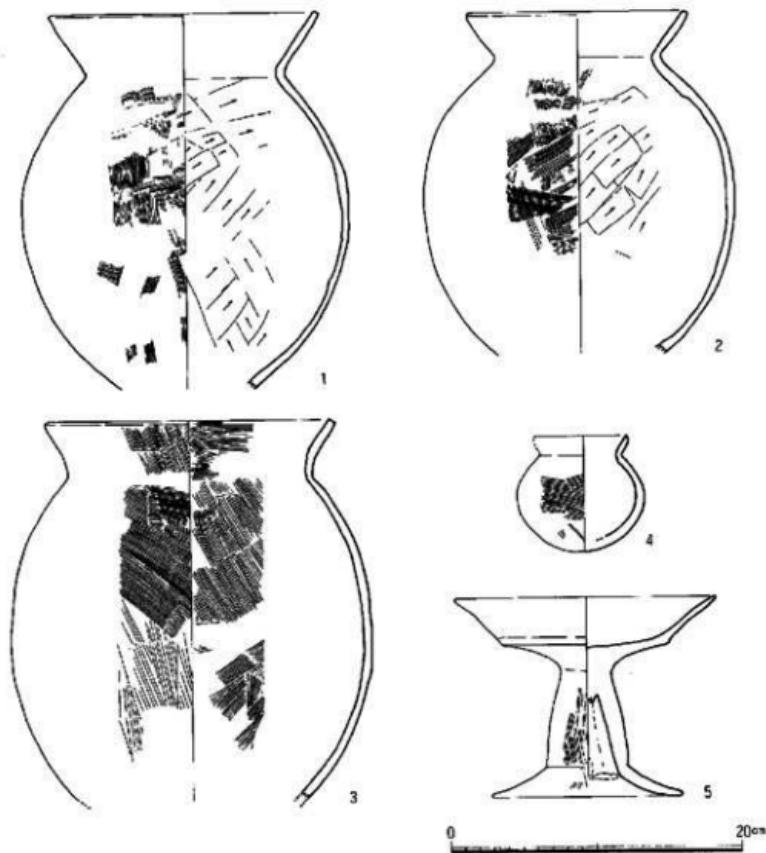
第19図 SD10溝出土遺物実測図 (I)



第20図 SD10溝出土遺物実測図 (2)

辨認番号	遺物種類 器種	形態の特徴	調 整	胎 土	焼 成	色 調	備 考	
1	土器帶質	蝶形の腹部に外済気泡に立ち上がる口跡部をもつ。	口跡部：横ナメ。底部：外面、ハケメ、内面、ヘラナデ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
2	土器帶質	蝶形の腹部に外済気泡に立ち上がる口跡部をもつ。	口跡部：横ナメ。底部：ハケメ後横ナメ。底部外面、ハケメ。底部内面、ヘラケズリ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	黑色を帯びた赤褐色。	外側に風化層。	
3	土器帶質	蝶形の腹部に外済気泡に立ち上がる口跡部をもつ。	口跡部、ハケメ。底部：外面上半、ハケメ、下半、ヘラナデ。内面、ハケメ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
4	土器帶質	小型の短頸品。	口跡部：横ナメ。底部：外面、ハケメ、内面、ヘラナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
5	土器帶質	青い表面をもつ底部に、中筋らみの横斜縫をもつ。	底部：口跡部、横ナメ。底部、ハケメ後ナメ。底部：外面、ハケメ、内面、ヘラケズリ。底部、ナデ。	粗良。粗かい砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
6	陶土土器体	突レンズ状底部に、口縁は内凹して滑まり、字道な縮れがある。	口跡部、横ナメ。底部：外面、ハケメ。内面上面、ヘラナデ、下半、ハケメ。	粗い砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
7	土器帶質	口跡部は低く丸めがあり、底部を削りおこめる。	口跡部、底部内面、など。底部外面は剥離が著しいが、ハケメとみられる。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
8	陶土土器體	馬頭したくびれ部をもつ、四葉形器台。	外側：ヘラナデ。口跡部、底部、後端ナデ。内面：受部、ヘラナデ、底部、ナデ。	細かい砂粒を少量含む。	良好。	黃褐色。		
9	陶土土器體	不規則なくびれ部をもつ、四葉形器台。	外側：ハケメ。内面：受部、ハケメ。底部、ナデ。	細かい砂粒を少量含む。	良好。	淡赤褐色。	褐點消失。	
10	陶土土器體	短く外反する受部をもつ、四葉形器台。	外側：口跡部、ナデ。底部上半、ハケメ、下半、タタキ、内面：受部、ハケメ。底部、ナデ。	砂粒を多量に含む。	やや不良。	黃褐色。		
11	陶土土器體	足出るくびれ部をもつ、四葉形器台。	受部、ハケメ。脚部上半外側、タタキ、内面、ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡褐色。	褐點消失。	
12	陶土土器體	不明瞭なくびれ部をもつ、四葉形器台。	受部外側、ハケメ後ナデ、内面、横ナメ。底部外側、タタキ、内面ナデ。	砂粒を多量に含む。	やや不良。	淡赤褐色。	褐點消失。	
13	陶土土器體	受部と脚部の境が不明瞭な四葉形器台。	外側：ハケメ後、ナデ。内面：受部、脚部、ナデ。底部外側、ナデ。底部、ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
14	陶土土器體	受部と脚部の境が不明瞭な四葉形器台。	外側：ハケメ。受部、底部はその後ナデ。内面：受部～脚部上半、ハケメ後ナデ。底部、横ナメ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	部分的に丹塗り痕を残す。	
15	陶土土器體		外側：タタキ、内面：ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	部分的に丹塗り痕を残す。	
16	陶土土器體		外側：受部、底部、ナデ。底部、ハケメ。内面：受部、ナデ、底部、ハケメ。	砂粒を含む。	良好。	淡赤褐色。		
17	陶土土器體	青影支脚。	外側：タタキ、内面：ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
18	陶土土器體	脚部下端外側に断面三角形突起、内面に縫をもつ状状突起。	外側：タタキ、内面：ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
*	19	陶土土器體	「く」字形口縁をもち、脚部最も太く中位にある。	口跡部：横ナメ。底部：外側上半、ヘラナデ。下半、ナデ。内面上面、ナデ。下半、ハケメ。内底部、ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。	
	20	陶土土器體	脚部上方で短く屈曲する口跡部をもつ。	底部、ハケメ後端外側にヘラシカキ。	精良。粗かい砂粒を多量に含む。	精良。	赤褐色。	脚部消失。
21	陶土土器體	口縁2mmを測り、口縁と突レンズ状の底部の縫の端が不明瞭。	底部：外側、ハケメ後ヘラナデ。内面、ハケメ。底部附近：ヘラナデ。	細かい砂粒を多量に含む。	良好。	淡赤褐色。		
22	陶土土器體	青影支脚。	外側：タタキ、内面：ナデ。	砂粒を多量に含む。	良好。	外：赤一灰褐色。 内：黄褐色。	脚部消失。	
23	陶土土器體	青影支脚。	受部、ナデ。脚部外側、ヘラナデ。内面、横ナメ。	砂粒を多量に含む。	良好。	外：赤褐色。 内：黄褐色。		

第7表 包含層出土遺物観察表

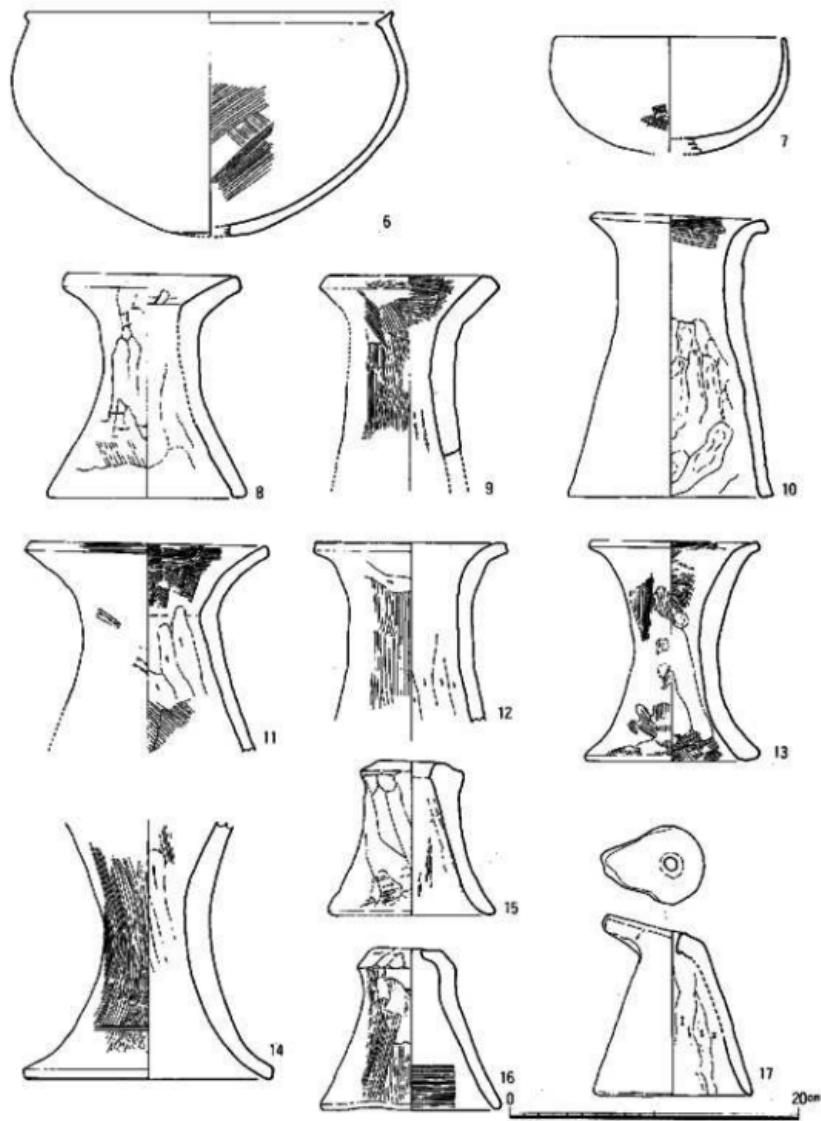


第21図 包含層出土遺物実測図 (I)

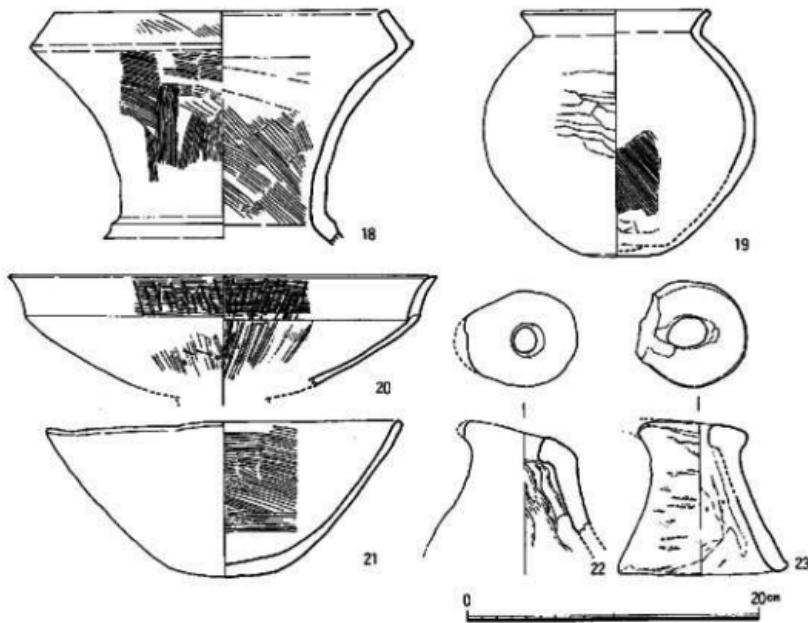
SD02出土遺物 (第24図)

土師器 鍋 (1) 内湾する口縁部が体部上位で屈曲する鍋の小片である。全体的に磨滅が著しいが、口縁下内面にハケメが残る。胎土には砂粒を多量に含み、明橙色を呈する。

瓦質土器 鉢 (2・3) 2は端部がやや肥厚した口縁部で、全体的に磨滅が著しく調整の詳細は不明だが、口縁下内面にハケメが残る。3は外底部に板状压痕、粘土紐の繰ぎ目、体部外面に指頭圧痕、内面には使用に磨滅がみられる体部下半資料である。2・3ともに胎土には砂粒を多量に含み、淡灰褐色を呈する。同一個体である可能性がある。



第22図 包含層出土遺物実測図 (2)



第23図 包含層出土遺物実測図 (3)

白磁

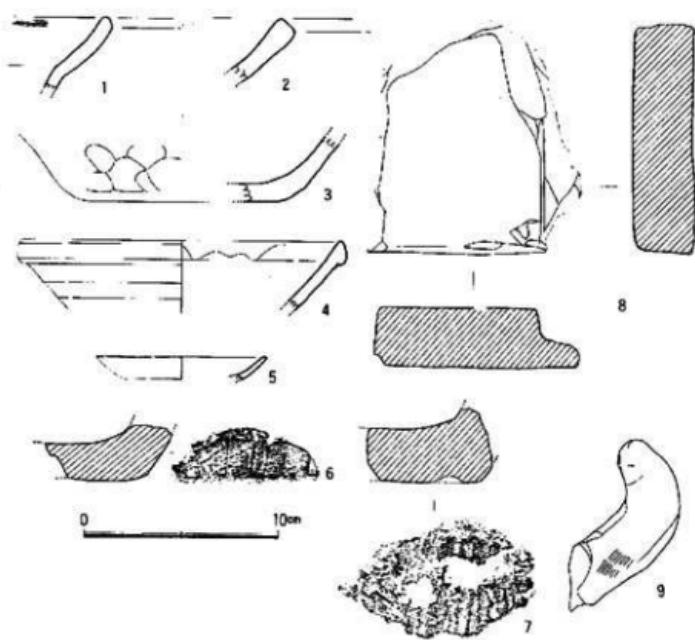
椀 (4) 口縁部を折り返し玉縁状にする椀N類の上半部で、胎土には黒色微粒子を含み、灰白色を呈する。灰白色の気泡のある釉がかけられ、口縁下内面では釉が垂下している。

皿 (5) 口縁部のみの小片である。胎土はやや粗く、黄色味をおびた白色を呈する。釉は透明で、貢入がみられる。

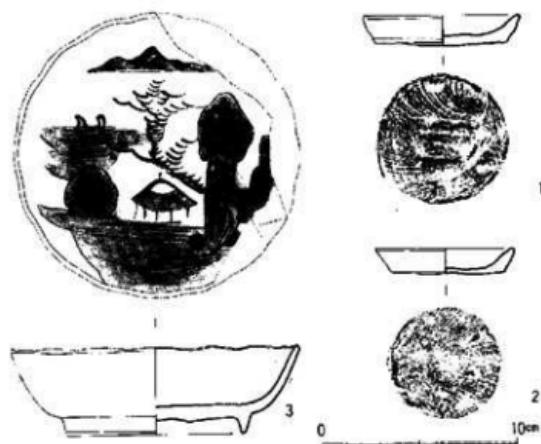
滑石製石鍋 (6・7) 扱曲する体部と底部の焼付近の破片資料である。体部外面に横方向のノミ状工具による削痕がみられ、内面は丁寧に研磨仕上げがなされる。外底部は磨耗。

土製品 (8) 用途不明の板状の土製品で、右側面の残存部位には段がみられ、ハケメ後横ナアを施している。型造りによるものとみられ、型からはず事を容易にするための粗砂が表面に付着している。焼として製作、使用されたものであろうか。

土師器 氷 (9) 指ナデ成形による瓶の把手である。胴部との接合部付近にハケメが残る。胎土には粗い砂粒を多量に含み、淡橙色を呈する。



第24図 SD02溝出土遺物実測図



第25図 S粘土探査坑出土遺物実測図

SK13出土遺物（第25図、
図版25）

土器器 小皿（1・2）

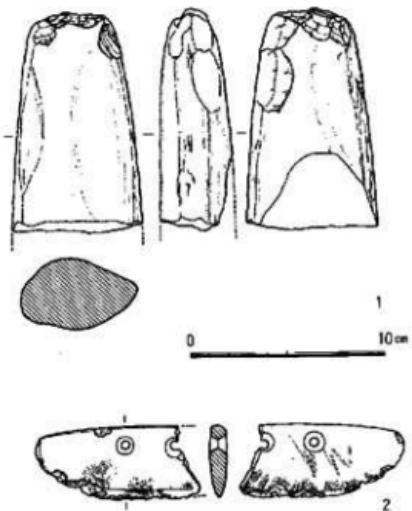
体部は横ナデ、内底はナデ。底部の切り離しは静止糸切り、外底には板状圧痕が残る。1は口径8.1cm、器高1.6cm、底径6.7cm、2は口径7.2cm、器高1.3cm、底径5.9cmを測り、底径の口径に占める比率が大きく、口縁部の開きは小さい。

肥前系磁器 皿（3） 蛇の目凹形高台の伊万里染付皿である。

石器（第26図、図版26）

大型蛇刃石斧（1） SD10からの出土。基部のみの残欠。打ち欠き、敲打の後、研磨。ローリングが著しい。石材は玄武岩、今山岩か。

石包丁（2） 右側部が消失し、約2/3の残欠である。刃部に沿って、加摩痕が著しい。刃部の再生を意図したものであろうか。包含層からの出土。



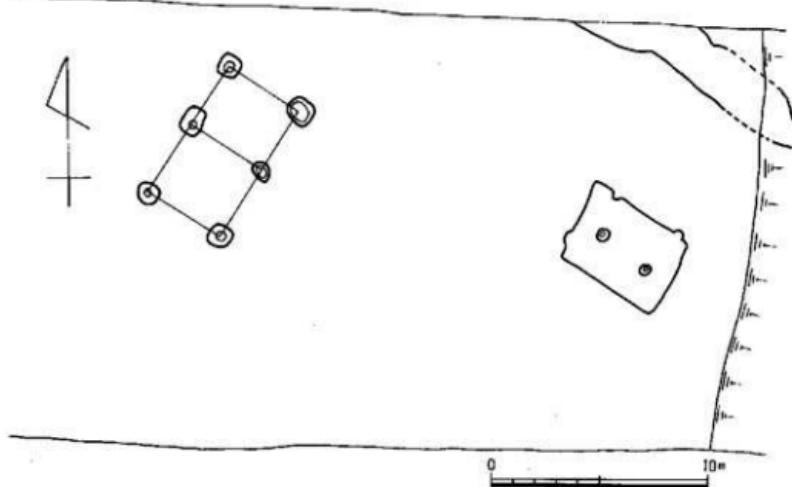
第26図 出土石器実測図

V 小 結

今回の調査では、調査区域が幅20mの道路の路線内に限定され、後世の削平が著しく遺構の残存状態が良くなかったために、各時代における遺構の構成を明確にすることができなかった。断面形が逆台形を呈する弥生時代後期中頃に掘削されたとみられる溝SD04については、後世の削平によるためか、調査区域内では同時期の遺構はみられず、北東方向に落ちる谷に向かうこの溝の性格は判然としない。

4世紀中頃から後半にかけての遺構としては、掘立柱建物SH05、竪穴住居跡SC01、溝SD01があげられる。いずれも主軸の方位を同じくし、掘立柱建物SB05の柱穴掘り方から時期決定しうる遺物の出土はないが、遺構埋土から同時期のものと判断した。第27図に示す、掘立柱建物、竪穴住居跡、溝の有機的関係については、今回の調査が実施された1985年度に行われた南側に隣接する園場整備に伴う発掘調査（太田遺跡第2次調査）、翌1985年度の今回の調査区に直交する市道野方・金武線建設に伴う発掘調査（太田遺跡第3次調査）の整理の進行を待って、述べることにしたい。

12世紀を主とする時期では、梁間2間×桁行3間の掘立柱建物を主体として構成される集落の一端が検出された。4世紀代の掘立柱建物と同様に柱穴掘り方から時期決定しうる遺物の出土はないが、柱間の距離、12世紀代の溝SD02と同様の埋上・方位であることから、同時期に比



第27図 II期遺構構成図

定した。溝SD02は挙大の礫が底面から若干浮いた状態で検出されたが、英石によって護岸がなされた可能性が考えられる。掘立柱建物SB03とSB04とは、ほぼ同じ位置にほとんど同規模で主軸の方位を僅かにずらして建て替えの関係にあるが、ほかに重複関係がほとんどみられないことから、集落が営まれた時期は12世紀代でもごく限られた時期で、その後は廃絶、移動がなされたようである。集落全体の総括については、4世紀代のそれと同様に2次、3次調査の整理の進行を待って、述べることにしたい。

大きく弥生時代後期中頃、4世紀中頃から後半、12世紀の各時期で集落が営まれているものの、そのいずれも長期間にわたっては生活の場として営まれていない。台地の東側を流れる日向川の氾濫を直接受け、生活の場としての立地条件には恵まれていなことに起因するものであろう。

一方、1～3次調査を通して、近世から近代にかけての瓦用の粘土上の採掘坑が数多くみられた。粘土を採掘した後は、瓦、瓦質土器の破片、焼き損ね、窯跡等の廃棄物を埋めている。今回の調査で検出されたSK13ではそれらの他に完形の土師器小皿が2点出土した。底部の切離し方法が静止糸切離しによる完形の土師器小皿が、廃棄物の中にみられたことは、或は祭祀行為によるものであるかもしれない。

図 版



調査区周辺空中写真



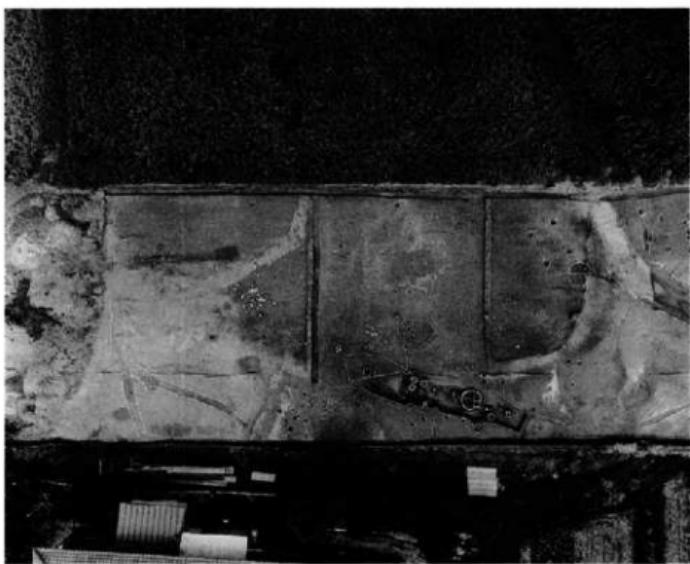
1. 調査区全景空中写真



2. I区全景空中写真



1. 1区東半部分空中写真



2. 1区西半部分空中写真



1. II区東半部分空中写真



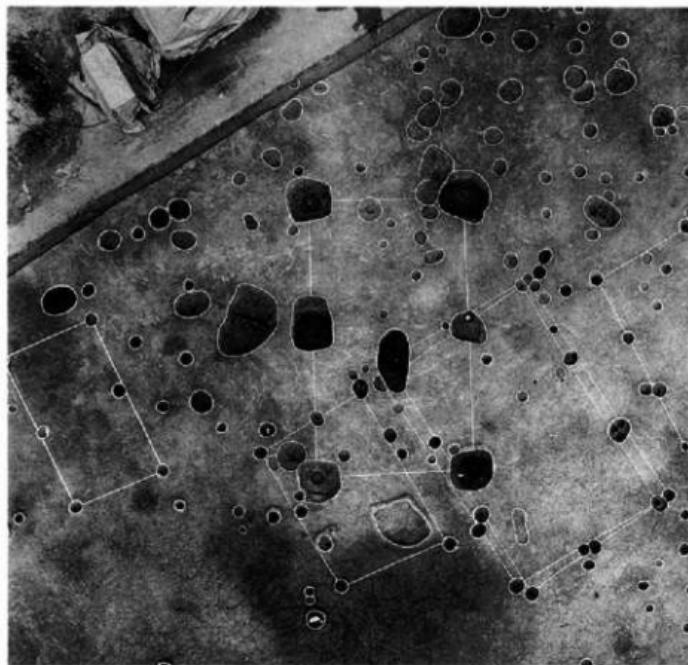
2. II区西半部分空中写真



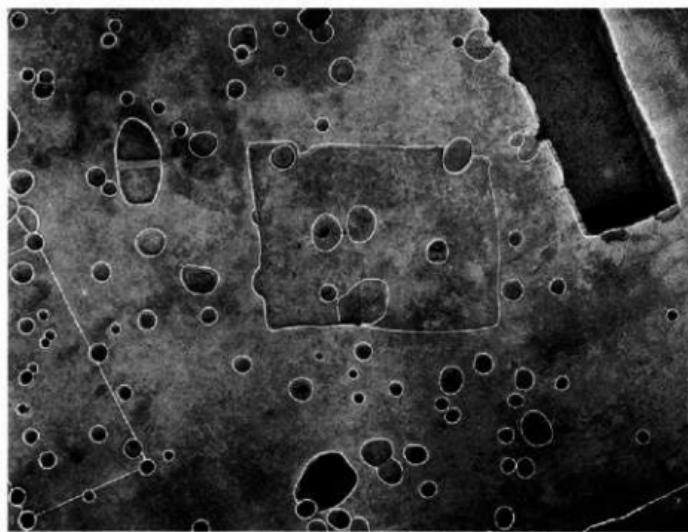
1. I区東半部獨立柱建物群



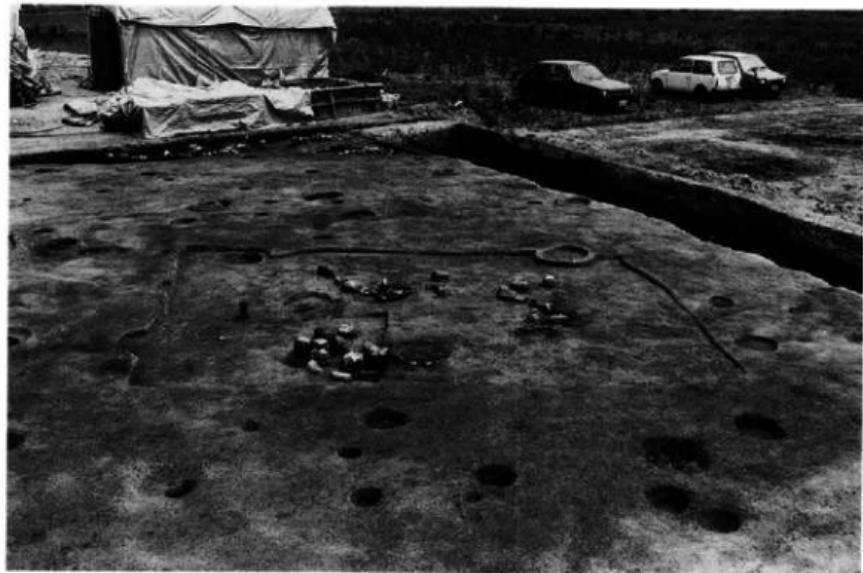
2. I区西半部分獨立柱建物群



1. SB05掘立柱建物



2. SC01竪穴住居跡



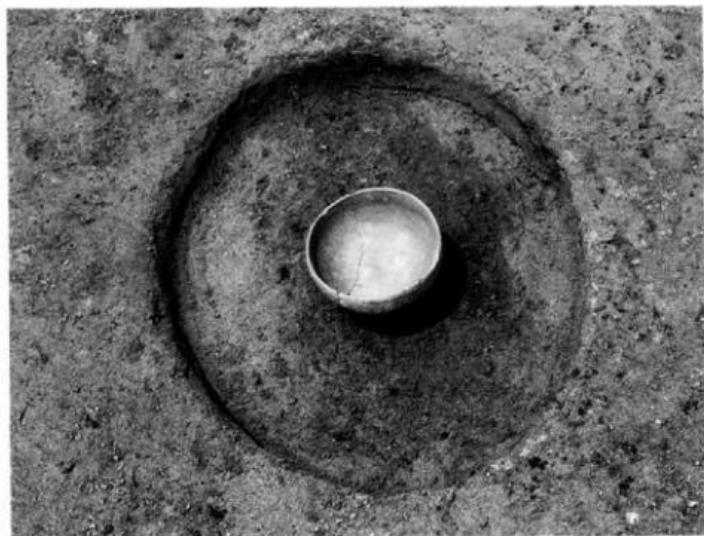
1. SC01竪穴住居跡（南西から）



2. SC01竪穴住居跡（北西から）



1. SD01溝（北西から）



2. ピット状遺構遺物出土状況



1. SD01溝（北東から）



2. SD10溝空中写真



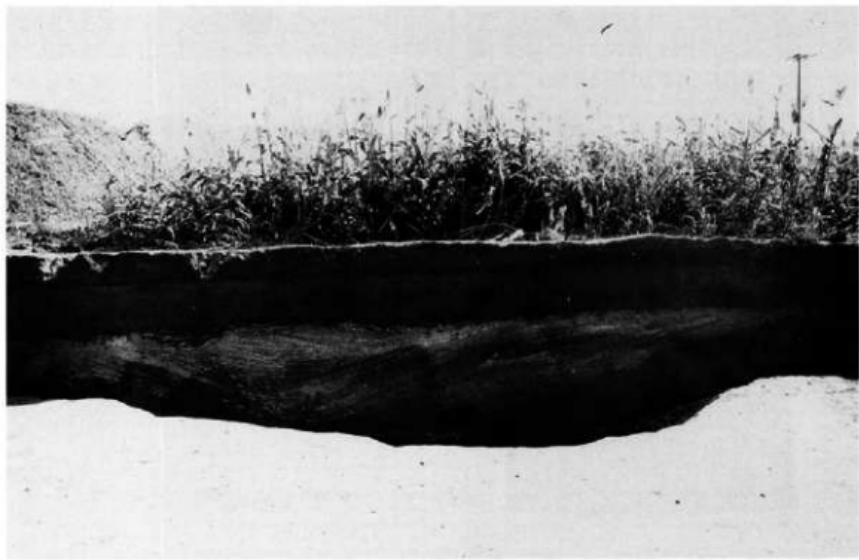
1. SD10溝III区南壁土層



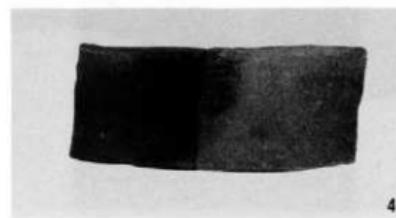
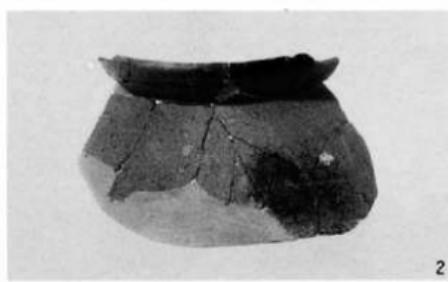
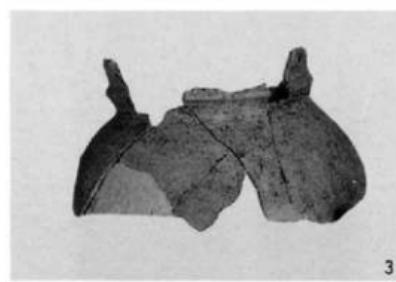
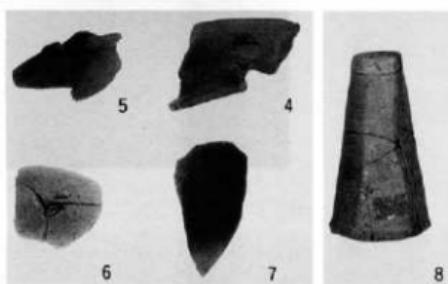
2. SD10溝II区南壁土層



1. SD10溝田区西壁土層



2. SX01土層



SC01・SD01(1)出土遺物



5



7



6



8

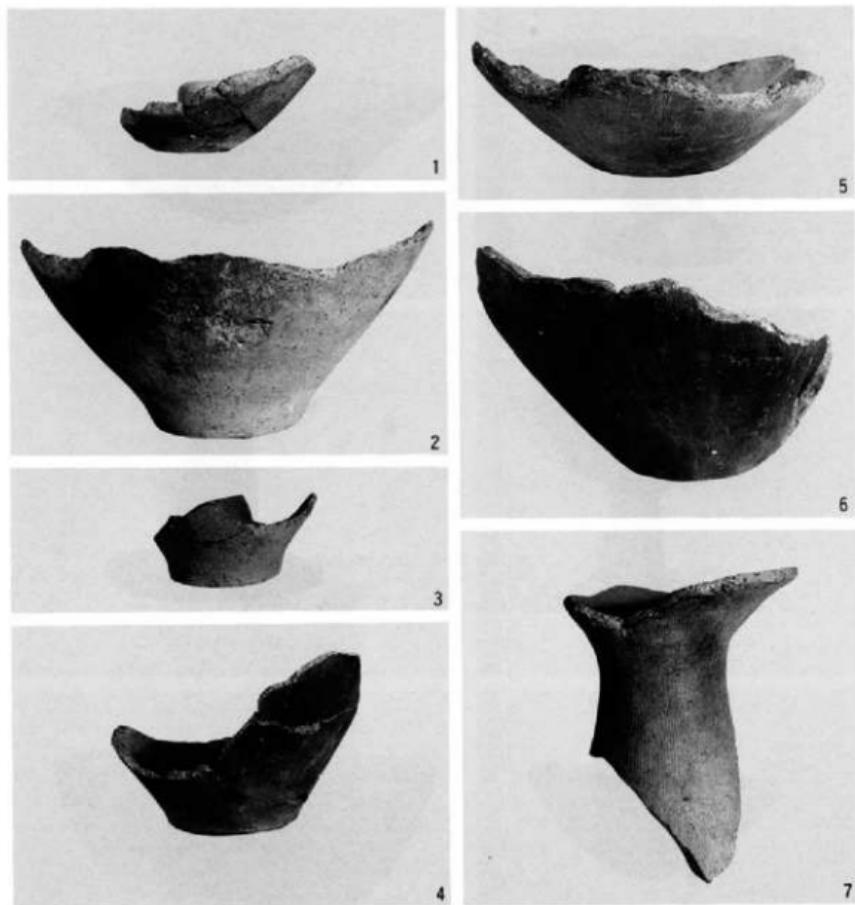


10



11

SD01出土遺物(2)



SD04出土遺物(1)



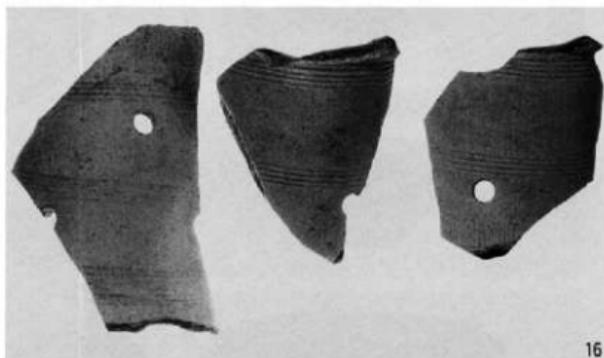
9



11



15

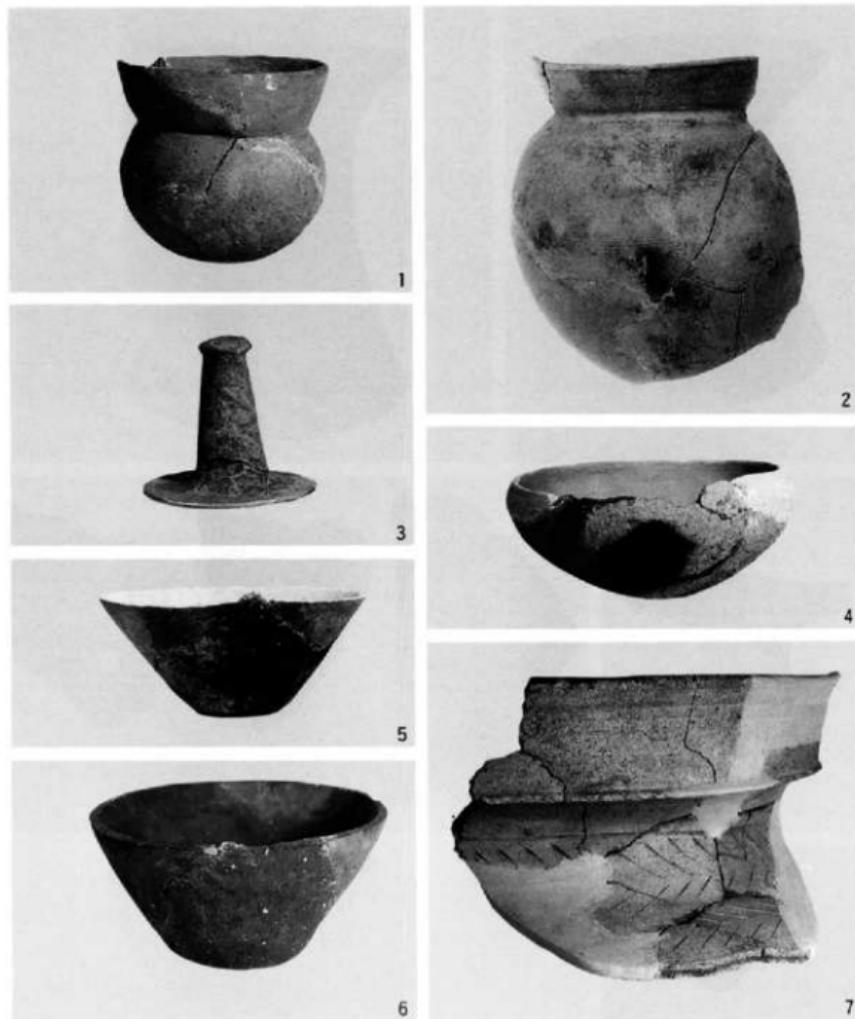


16

SD04出土遺物(2)



14



SD10出土遗物(1)



8



9



10



12



11



15



16

SD10出土遺物(2)

図版18



13



14



20



21



17



19



22

SD10出土遺物(3)



23



24



25



26



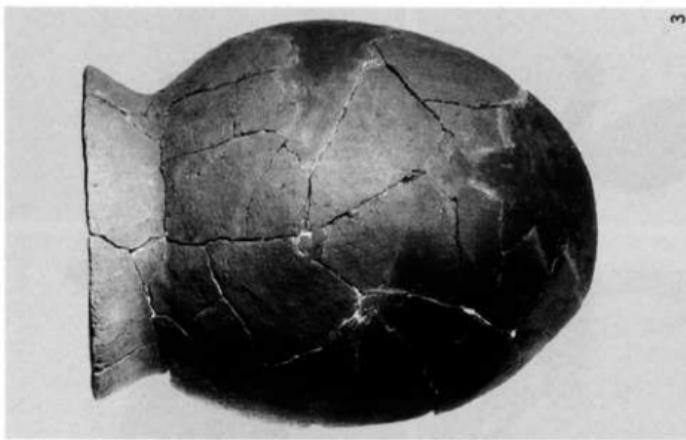
27



28

SD10出土遺物(4)

3

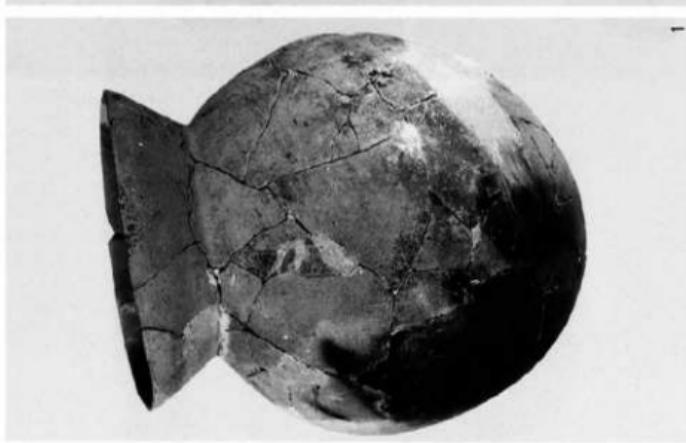


2



包含层出土遗物(1)

1





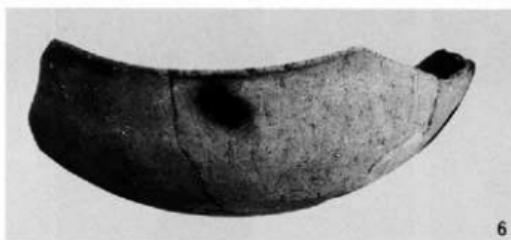
4



5



6



6



7

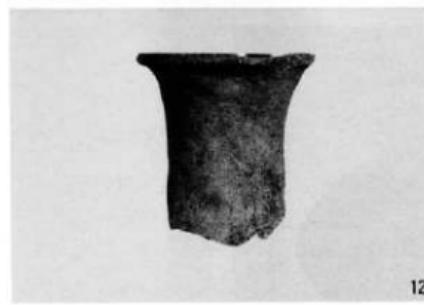
包含層出土遺物(2)



8



9



12



13



14

包含層出土遺物(3)



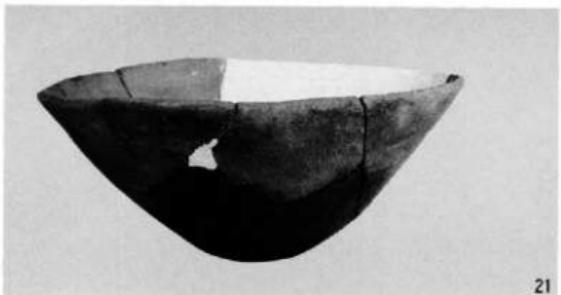
15



16



18

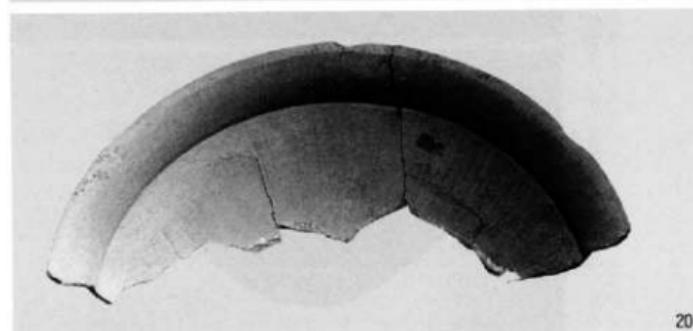
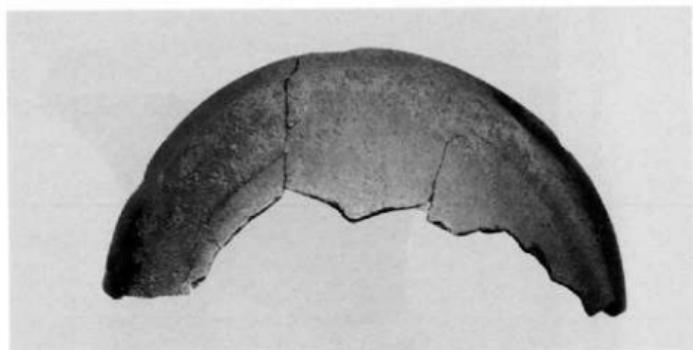


21



29

包含层出土遗物(4)



20



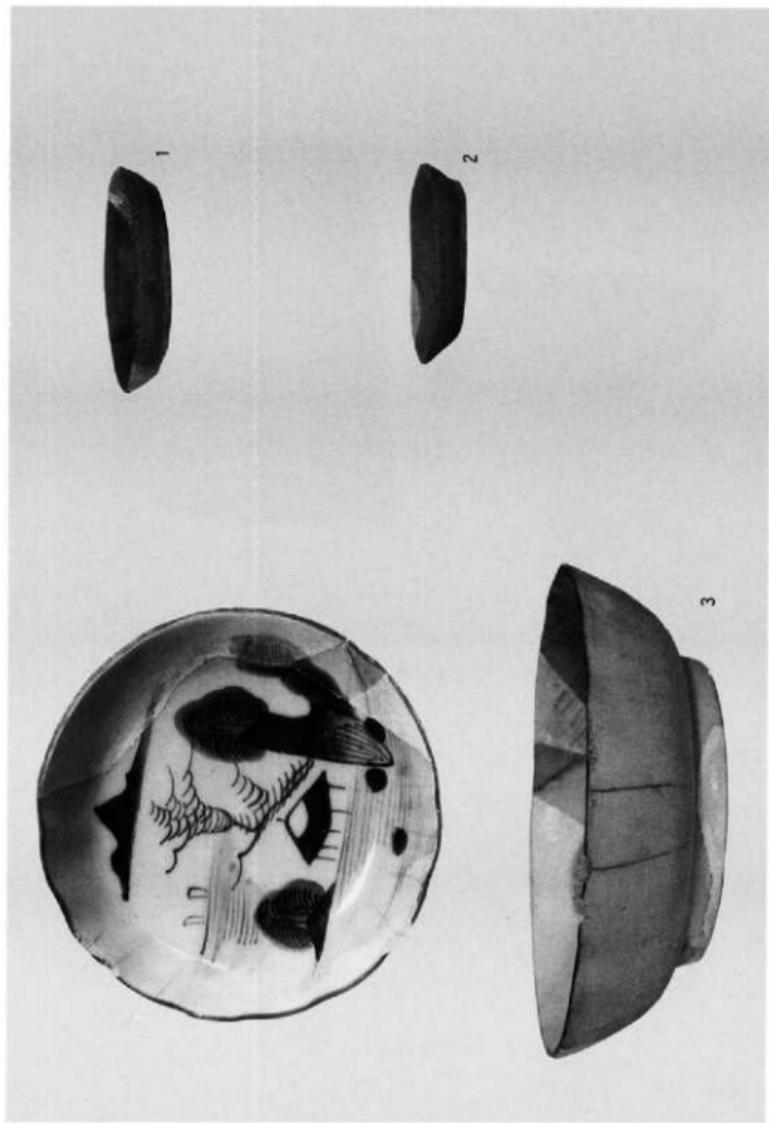
22



23

包含层出土遗物(5)

SK13出土遺物





出土石器

太田遺跡 I

市道田・飯盛線関係埋蔵文化財調査報告書III

福岡市埋蔵文化財調査報告書第239集

1991年3月15日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 大野印刷株式会社

